

Endeavor

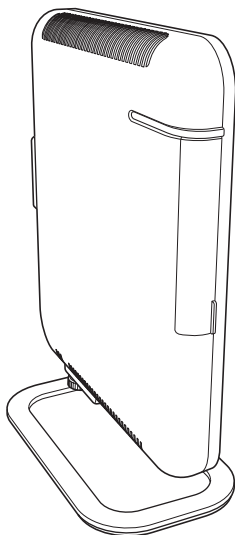
NP11

ユーザーズマニュアル

Windows XP

本機でできること

本機は、静音性・低消費電力に優れた、コンパクトサイズのコンピューターです。



本機では、主に次のようなことができます。

ネットワークに接続する

 p.38

画面表示を調節する

 p.31

インターネットやメールを利用する

 p.44

USB機器を接続して使う

 p.29

音声の入力・出力をする

 p.34

省電力機能を使う

 p.54

インフォメーションメニューを使う

 p.21

システム診断ツールを使う

 p.112

目次

本機でできること	2
----------------	---

ご使用の前に

製品保護上の注意	6
使用・保管時の注意	6
記録メディア	7
マウス	8
マニュアル中の表記	9
各部の名称と働き	12
本体前面	12
本体背面	13
添付されているソフトウェア	14

コンピューターの基本操作

電源の入れ方・切り方	17
電源の入れ方とWindowsの起動	17
Windowsの終了と電源の切り方	18
再起動	19
ハングアップしたときは	19
Windows使用時の確認事項	20
Windows XPの使用法	20
セキュリティ対策を行う	21
インフォメーションメニューを使う	21
復元ポイントを作成する	22
画面表示が消えたときは（省電力機能）	23
コントロールパネルの表示	23
キーボードを使う	24
キーの種類と役割	24
文字を入力するには	25
日本語を入力するには	25
キーロック表示ランプ	26
マウスを使う	27
マウスの操作	27
マウスの設定変更	27
HDDを使う	28
データのバックアップ	28
USB機器を使う	29
USB機器の接続と取り外し	29
画面表示機能を使う	31
表示に関する各種設定	31
表示できる解像度と表示色	32
表示装置に関する設定	33
サウンド機能を使う	34

オーディオ機器の接続	34
音量の調節	35
音声の再生・録音	35
サウンドユーティリティを使う	36
録音時の音量調節	37
ネットワーク機能を使う	38
ネットワークの構築	38
インターネットへの接続	38
Wakeup On LAN	39
リモートブート	41
インターネットに接続するには	42
接続方法の選択とプロバイダーとの契約	42
インターネットに接続する	43
インターネットを使う上での注意	44
インターネットや電子メールを利用する	44
インターネットを使用する際のセキュリティ対策	47
Windows Update	47
セキュリティソフトウェア	49
ファイアウォール	50
Webフィルタリングソフトウェア	51
省電力機能を使う	54
省電力機能使用時の制限	54
省電力状態の種類	55
省電力状態に移行する	57
省電力状態から復帰する	58

BIOSの設定

BIOSの設定を始める前に	60
BIOS Setupユーティリティの操作	61
BIOS Setupユーティリティの起動	61
BIOS Setupユーティリティの操作	62
BIOS Setupユーティリティの終了	65
設定値を元に戻す	65
パスワードを設定する	67
HDDアクセス制限	69
BIOS Setupユーティリティの設定項目	70
Mainメニュー画面	70
Advancedメニュー画面	71
Power メニュー画面	72
Bootメニュー画面	73
Securityメニュー画面	74
Exitメニュー画面	75
BIOSの設定値	75

ソフトウェアの再インストール

再インストールする前に必ずお読みください ...	78
再インストールが必要な場合	78
重要事項	78
ソフトウェアの再インストールを行う	79
必要な機器とメディア	79
インストールの順番	79
インストール作業における確認事項	80
Windows XPのインストール	81
Windows XPをインストールする	82
本体ドライバーのインストール	85
Adobe Readerのインストール	86
セキュリティソフトウェアのインストール ...	87
Webフィルタリングソフトウェアの インストール	87
JWord Pluginのインストール	89
gooスティックのインストール	89
マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版の インストール	90
そのほかのインストール	91
再インストール後の作業	91

こんなときは

トラブルが発生したら	94
困ったときに	95
コンピューター本体の不具合（起動時） ...	96
コンピューター本体の不具合	103
メモリーの不具合	104
記憶装置の不具合	105

入力装置の不具合	105
表示装置の不具合	107
サウンドの不具合	108
ソフトウェアの不具合	109
ネットワーク、インターネットの不具合 ...	111
システム診断ツールを使う	112
システム診断ツールの種類	112
システム診断を実行する	112
トラブル時に役立つ機能	114
セーフモードでの起動	114
システムの復元	114
警告メッセージが表示されたら	116

付録

お手入れ	118
本機のお手入れ	118
データのバックアップ	119
バックアップ方法	119
電子マニュアルのダウンロード	121
ダウンロードできるそのほかのデータ ...	121
HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成	122
HDD領域を分割して使用する（概要） ...	122
Cドライブを分割・変更する	123
Cドライブ以外のドライブを作成・変更する ...	126
Cドライブ以外のドライブを削除する ...	130
リチウム電池の交換	131
コンピューターを廃棄するときには	132
HDDのデータを消去する	132
機能仕様一覧	134
索引	135

ご使用前に

本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項について説明します。

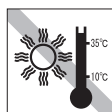
「製品保護上の注意」	6
「マニュアル中の表記」	9
「各部の名称と働き」	12
「添付されているソフトウェア」	14

製品保護上の注意

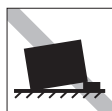
▶使用・保管時の注意

コンピューター（本機）は精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。

特に指定のない限り、注意事項は、本体およびACアダプターなどの同梱品に適用されます。



温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。故障、誤動作の原因となります。適切な温度の目安は10℃～35℃です。



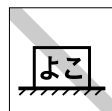
不安定な所には設置しないでください。落下したり、振動したり、倒れたりすると、本機が壊れ、故障することがあります。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理用器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。また、直射日光などの紫外線は、変色の原因となります。



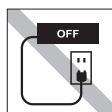
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。本機の誤動作が生じたり、データが破損したりすることがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



コンピューター本体を横置きにしないでください。故障、誤動作の原因となります。本機は縦置き専用に設計されています。



電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリー上から消えてしまいます。



コンセントに電源プラグを接続したまま、本体カバーを外して作業しないでください。電源を切っても、本機内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



移動するときには、振動や衝撃を与えないようにしてください。内蔵の周辺機器（HDDなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



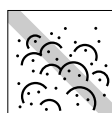
本機を梱包しない状態で、遠隔地への輸送や保管をしないでください。衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。



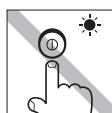
他の機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。配線ケーブルなどはすべて取り外してください。



ホコリの多い所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。



アクセスランプ点灯・点滅中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



ACアダプターの上に乗ったり、踏みつけたり、重い物を載せるなどして、ケースを破損しないでください。



ACアダプターはコードを持って抜き差ししないでください。コードの断線や接触不良の原因となります。

▶記録メディア

記録メディアは、次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、記録メディアに収録されているデータが破損するおそれがあります。

＜記憶メディアの種類＞

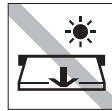
FD FD

CD 光ディスクメディア

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに適用されます。



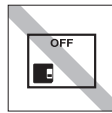
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



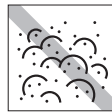
上に物を載せないでください。



使用後は、本機にセットしたままにしたり、ケースに入れずに放置したりしないでください。



キズを付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用したり保管したりしないでください。



クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。

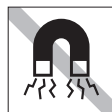


アクセスカバーを開けたり、磁性面あるいは金属端子に触れたりしないでください。



磁性面や金属端子にホコリや水を付けないでください。シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。

FD



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。

FD



何度も読み書きしたFDは使わないでください。磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。

FD



信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。

CD



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。

CD



レコードのように回転させて拭かないでください。内側から外側に向かって拭いてください。

CD



光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。

CD



シールを貼らないでください。

CD



信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。

CD

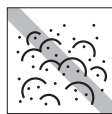


温度差の激しい場所に置かないでください。結露する可能性があります。

CD

▶マウス

マウスは精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。



ゴミやホコリの多いところでは、使用したり保管したりしないでください。レンズにゴミやホコリが付いたまま使用すると、誤動作の原因になります。



持ち運びの際は、マウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



落としたり、ぶついたりして強い衝撃を与えないでください。



レンズ部分に触れないでください。

マニュアル中の表記

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



制限事項です。
機能または操作上の制限事項を記載しています。



参考事項です。
覚えておくと便利なことを記載しています。



本書とは別のマニュアルを示します。
例) 『サポート・サービスのご案内』: 本機に添付の『サポート・サービスのご案内』を示します。




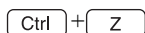
参照先を示します。



1 2



操作手順です。
ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。



 で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。



 はEnterキーを表します。また、 は $N_{み}$ のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。

+の前のキーを押したまま+の後のキーを押します。
この例では、 を押したまま  を押します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
FD	フロッピーディスク
FDD	フロッピーディスクドライブ
光ディスクメディア	CDメディア、DVDメディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称

オペレーティングシステム（OS）に関する記述

本書では、オペレーティングシステム（OS）の名称を次のように略して表記します。

Windows XP	Microsoft® Windows® XP Home Edition
------------	-------------------------------------

HDD容量の記述

本書では、HDD容量を1GB（ギガバイト）＝1000MBとして記載しています。

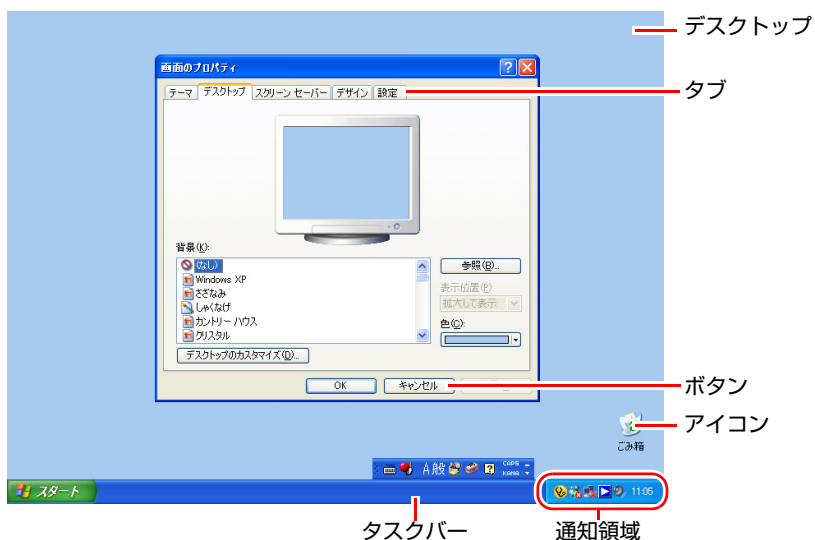
メモリー容量の記述

本書では、メモリー容量を1GB（ギガバイト）＝1024MBとして記載しています。

Windowsの画面表示に関する記載方法



デスクトップ画面

本書では、Windows XPの画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタン

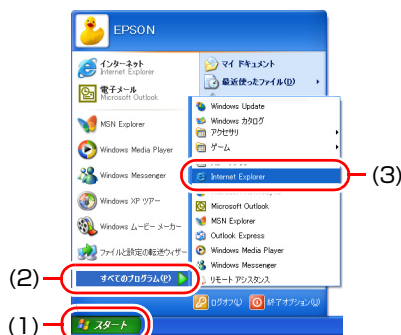
ボタンは [] で囲んで記載します。

例)  スタート : [スタート] /  OK : [OK]

画面操作

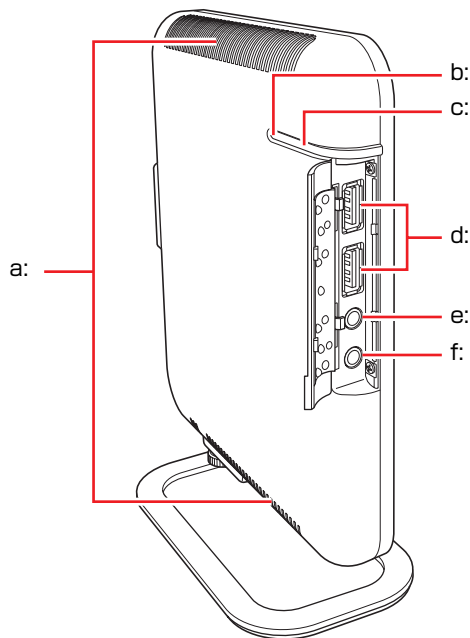
本書では、Windows XPの画面上で行う操作手順を次のように記載します。

- 記載例
[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Internet Explorer」をクリックします。
- 実際の操作
 - (1) [スタート] をクリックします。
 - (2) 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。
 - (3) 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



各部の名称と働き

▶ 本体前面



a: 通風孔

コンピューター内部で発生する熱を逃がしたり、外気を取り入れます。

b: HDDアクセスランプ

HDDアクセス中に緑色に点灯・点滅します。

c: 電源スイッチ/電源ランプ

本機の電源の入切を行います。また、電源ランプにより電源状態を示します。

青色点灯：通常

青色点滅：スタンバイ

消灯：電源切断時または休止状態

d: USBコネクター

USB対応機器を接続します。

e: ヘッドフォン出力コネクター

スピーカーやヘッドフォンなどを接続します。

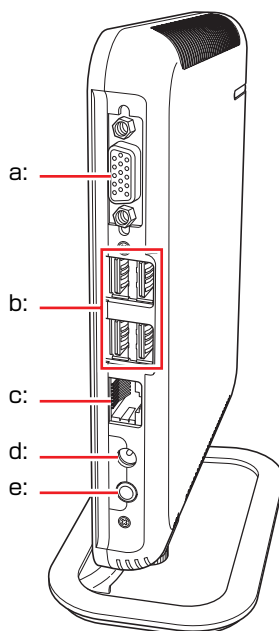
f: マイク入力コネクター


マイクを接続します。




アクセスランプが点灯・点滅しているときに本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。データが破損するおそれがあります。

▶ 本体背面




a: VGAコネクタ 


ディスプレイとVGAケーブルで接続
します。

b: USBコネクタ 


USB対応機器を接続します。

c: LANコネクタ 

LANケーブルを接続します。

d: ACアダプターコネクタ 

付属のACアダプターを接続します。

e: ライン出力コネクタ 



アンプ内蔵スピーカーやヘッド
フォンなどを接続して音声を出
力します。

添付されているソフトウェア

購入時、本機にインストールされているソフトウェアと、購入後、必要に応じてインストールするソフトウェアは次のとおりです。


本機にインストールされているソフトウェア

購入時、次のソフトウェアは、本機にインストールされています。

本機にインストールされているソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none">● Windows XP 本機のオペレーティングシステム（OS）です。	 Windows XPリカバリCD
<ul style="list-style-type: none">● ビデオドライバー Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバーです。	 ドライバー CD
<ul style="list-style-type: none">● サウンドドライバー 音を鳴らしたり、録音するためのドライバーです。	
<ul style="list-style-type: none">● ネットワークドライバー ネットワーク機能を使用するためのドライバーです。	
<ul style="list-style-type: none">● Java2 Runtime Environment Javaアプリケーションを実行するためのソフトウェアです。	
<ul style="list-style-type: none">● インフォメーションメニュー トラブル時の解決方法やサポートページを閲覧するためのユーティリティです。	
<ul style="list-style-type: none">● Microsoft .NET Framework .NET Frameworkの開発環境で作成されたソフトウェアなどを使用するためのプログラムです。	
<ul style="list-style-type: none">● Windows Media Player 11 動画や音声を再生するためのソフトウェアです。	
<ul style="list-style-type: none">● Adobe Reader PDF（Portable Document Format）形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。	
<ul style="list-style-type: none">● システム診断ツール コンピューターの調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。	

必要に応じてインストールするソフトウェア


次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。購入後のWindowsセットアップ時に表示される「初期設定ツール」を利用してインストールできます。「初期設定ツール」でインストールしない場合は、必要に応じて外付け光ディスクドライブを接続しインストールしてください。

本機にインストールされていないソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ● Norton Internet Security 90日版 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能、フィッシング詐欺対策機能などを備えたセキュリティーソフトウェアです。 	 ドライバー CD
<ul style="list-style-type: none"> ● i-フィルター 5 30 日版 インターネット上の有害な Web ページへのアクセスを防止する Web フィルタリングソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版 Webサイトの安全性評価を表示し、危険なサイトへのアクセスを防ぐ Web セーフティーツールです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● JWord Plugin Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索するためのソフトウェアです。 	
<ul style="list-style-type: none"> ● gooスティック Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するためのソフトウェアです。 	

その他のソフトウェア

次のソフトウェアは、インストールの必要はありません。外付け光ディスクドライブを接続して、CDから起動して実行します。

 p.112 「システム診断ツールを使う」

その他のソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
<ul style="list-style-type: none"> ● システム診断ツール コンピューターの調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD内のデータを消去することもできます。 	 ドライバー CD

第1章 コンピューターの基本操作

電源の入れ方・切り方、キーボードやマウスの使用方法など、本機の基本操作について説明します。


「電源の入れ方・切り方」	17
「Windows使用時の確認事項」	20
「キーボードを使う」	24
「マウスを使う」	27
「HDDを使う」	28
「USB機器を使う」	29
「画面表示機能を使う」	31
「サウンド機能を使う」	34
「ネットワーク機能を使う」	38
「インターネットに接続するには」	42
「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」	47
「省電力機能を使う」	54

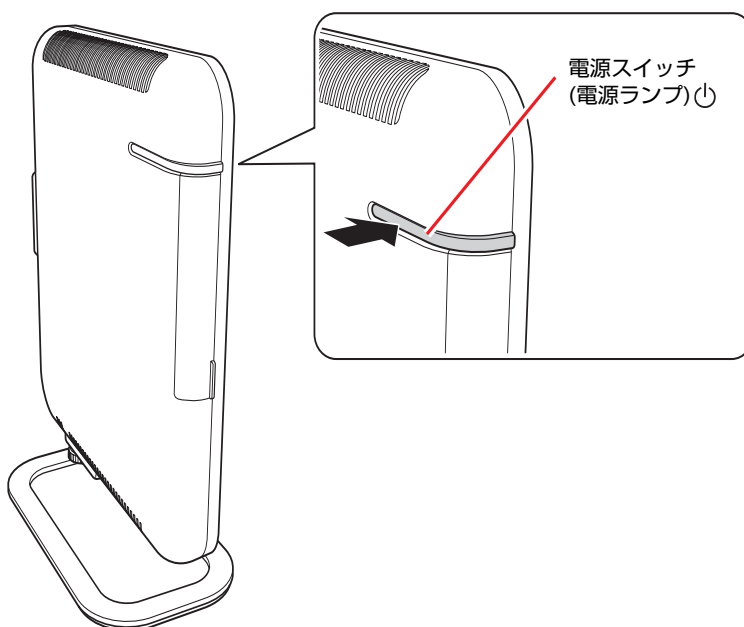
電源の入れ方・切り方

ここでは、電源の入れ方や切り方について説明します。

▶電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

- 1** ディスプレイやスピーカーなどの電源を入れます。
- 2** 本機を手で支えながら、電源スイッチ（)を押して、電源を入れます。
電源ランプが青色に点灯します。




- 3** 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

電源を入れる際の注意

本機の電源を入れる際は、次の点に注意してください。

- 電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる
Windowsが省電力状態に移行すると、本機が動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまうように注意してください。

 p.54 「省電力機能を使う」

- 電源を入れなおすときは、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れる
電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。
- 周辺機器の電源をいつ入れるか確認する
本機よりも先に電源を入れるか後に入れるかは、周辺機器によって異なります。周辺機器に添付のマニュアルで確認してください。

▶ Windowsの終了と電源の切り方



- 電源を切って、もう一度入れる場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を空けてください。
- アクセスランプ点灯・点滅中に本機の電源を切ると、収録されているデータが破損するおそれがあります。
- 本機は、電源を切っても、電源プラグがコンセントに接続されていると、微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

電源を切るときは、必ずWindowsを終了させてから電源を切ります。

- 1** [スタート] - [終了オプション] をクリックします。
- 2** 「コンピュータの電源を切る」画面で [電源を切る] をクリックします。
Windowsが終了し、自動的に電源が切れます。
- 3** 接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows終了時の注意

Windows XPを複数のユーザーが使用している状態でWindowsを終了しようとする時、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、ログオンしているすべてのユーザーをログオフしてから、Windowsを終了してください。

▶再起動

電源が入っている状態で、コンピューターを起動しなおすことを「再起動」と言います。

Windowsの再起動方法

Windowsの再起動方法は次のとおりです。

1 [スタート] - [終了オプション] - [再起動] をクリックします。

次のような場合には、Windowsを再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windowsの動作が不安定になった場合

再起動しても状態が改善されない場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れなおしてみてください。

▶ハングアップしたときは

ソフトウェアやWindowsがキーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態をハングアップと言います。

ハングアップした場合は、ソフトウェアの強制終了を行います。ソフトウェアの強制終了をしても状態が改善されない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

ソフトウェアの強制終了

ソフトウェアの強制終了方法は、次のとおりです。

- 1 **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押し、「Windows タスクマネージャ」を起動します。
- 2 「アプリケーション」タブからハングアップしているソフトウェアを選択して「タスクの終了」をクリックします。
- 3 「プログラムの終了」画面が表示されたら、「すぐに終了」をクリックします。

強制的に電源を切る

Ctrl + **Alt** + **Delete** を押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

強制的に本機の電源を切る方法は、次のとおりです。

- 1 本機の電源スイッチ (⏻) を5秒以上押し続けます。
本機の電源が切れます。

Windows使用時の確認事項

Windowsをご使用の前に、次の事項を確認してください。

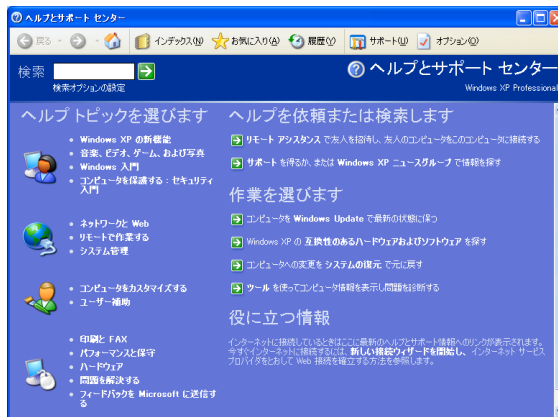
▶ Windows XPの使用方法

Windows XPの使用方法は、次をご覧ください。

● Windowsのヘルプ


「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

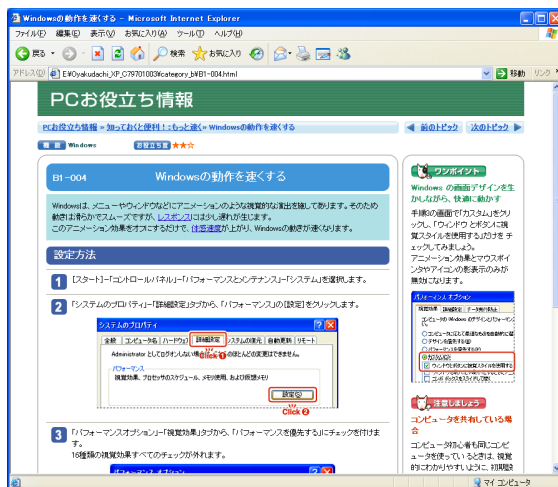
【スタート】 - 【ヘルプとサポート】



● PCお役立ち情報

「PCお役立ち情報」は「インフォメーションメニュー」から開きます。


 p.21 「インフォメーションメニューを使う」



▶セキュリティ対策を行う

本機には、外部と接続することで高まる危険から、本機を守るためのセキュリティ機能が搭載されています。

インターネットに接続する場合は、セキュリティ対策を行ってください。

 p.47 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」

▶インフォメーションメニューを使う

本機には、トラブル時の情報を見たり、サポートページに簡単にリンクしたりすることができる「インフォメーションメニュー」が搭載されています。

起動方法

「インフォメーションメニュー」の起動方法は次のとおりです。

- デスクトップ上の「インフォメーションメニュー」アイコンをダブルクリックする



- スタートメニューから起動する

「インフォメーションメニュー」が起動すると次の画面が表示されます。



インフォメーションメニューの項目

インフォメーションメニューの各項目の内容は、次のとおりです。

- ユーザーサポートページ (Web)

技術的な情報、トラブルの解決方法や保証サービスのご案内などを掲載しています。マニュアルやドライバー、BIOSの最新バージョンもダウンロードできます。

「ユーザーサポートページ」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

- サポート情報検索 (Web)

「とらぶる解決ナビ」に収録されていない最新のサポート情報を掲載しています。「とらぶる解決ナビ」で本機の不具合が解決できなかった場合にご覧ください。

「サポート情報検索」を閲覧するには、インターネットへの接続が必要です。

- トラブルが解決しなかったら

技術的なご質問や修理依頼などの問い合わせ先を掲載しています。マニュアルや当社のユーザーサポートページを参照しても、トラブルが解決しない場合にご覧ください。

- PCお役立ち情報

コンピューターに関する便利で役立つ情報や用語集を掲載しています。マニュアルとあわせてご覧になり、コンピューターを使用する際の参考にしてください。

- とらぶる解決ナビ


技術的な情報やトラブルの解決方法を収録しています。本機の調子が悪い場合に、本書の「困ったときに」とあわせてご覧ください。

 p.94 「トラブルが発生したら」

▶ 復元ポイントを作成する


Windowsの「システムの復元」機能で「復元ポイント」を作成しておくことで、本機の動作が不安定になった場合、システムの復元機能を使用して、作成しておいた「復元ポイント」までシステムの状態に戻すことができます。

通常、「復元ポイント」はソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

 p.115 「復元ポイントを手動で作成する」

▶画面表示が消えたときは（省電力機能）

本機は、一定時間マウスやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えるように設定されています。画面表示が消えて、本機の電源ランプが青色に点滅している場合は、スタンバイになっています（購入時の設定）。この場合は、電源スイッチを押すと元に戻ります。

 p.58 「省電力状態から復帰する」

▶コントロールパネルの表示

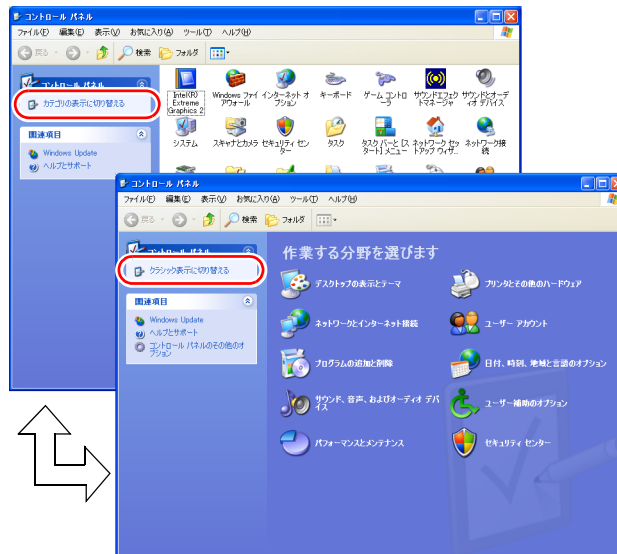
コントロールパネルの表示には、次の2種類があります。

- 「カテゴリーの表示」：項目をカテゴリーごとにまとめて表示します（初期設定）。
- 「クラシック表示」：項目をすべて表示します。

表示の切り替えは、画面左側にある、「クラシック表示に切り替える」、「カテゴリーの表示に切り替える」をクリックして行います。

本書では、「カテゴリーの表示」形式を前提に記載しています。

<クラシック表示>



<カテゴリーの表示>

キーボードを使う

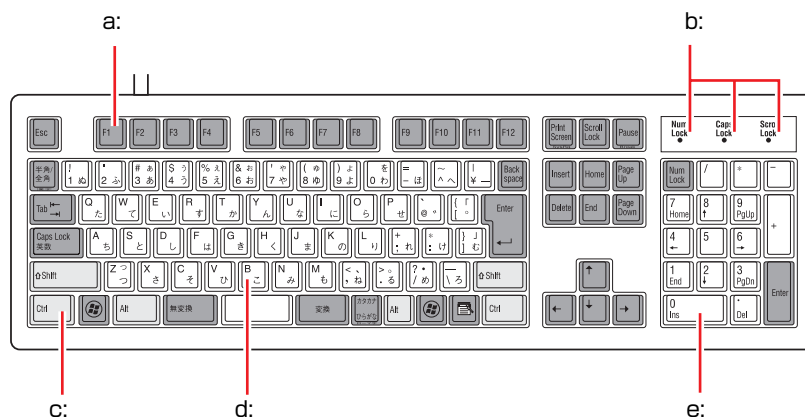
ここでは、日本語対応109 USB キーボードについて説明します。

購入時にこのほかのキーボードを選択し、キーボードのマニュアルが添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

▶キーの種類と役割

キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。


入力キー



a: 機能キー

文字を消す、入力位置を変えるなど、特別な役割が割り当てられたキーです。機能キーの役割は、ソフトウェアによって異なります。

b: キーロック表示ランプ

 p.26「キーロック表示ランプ」

c: 制御キー


文字キーや機能キーの働きを変化させます。単独では機能しません。

d: 文字キー

英数字、記号の入力や日本語入力システムを利用して漢字やひらがななどの日本語を入力します。

e: 数値キー

数字、演算子などを入力します。


 の状態によりキーの機能が変わります。

▶文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字された文字が入力されます。入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え

 を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。

日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

▶日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方

MS-IMEパネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。



a: 入力モード

入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

b: ヘルプ

MS-IMEの詳しい説明を見ることができます。

c: かなキーロック

日本語入力モードの切り替えを行います。








ボタンが押されていない状態：ローマ字入力

ボタンが押されている状態：かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

▶キーロック表示ランプ

キーボード右上の3つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割	数値キーの状態を切り替え
	切り替え	 を押します。
	点灯時	数値を入力
	消灯時	カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割	アルファベットの大文字/小文字の切り替え
	切り替え	 +  を押します。
	点灯時	大文字を入力
	消灯時	小文字を入力
Scroll Lock	役割	ソフトウェアによって異なります。
	切り替え	 を押します。

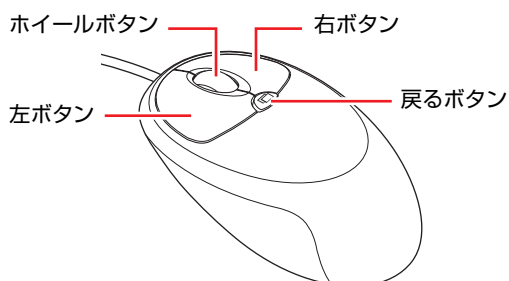
マウスを使う

ここでは、ホイール付USBオプティカルマウスについて説明します。
購入時にこのほかのマウスを選択し、マウスにマニュアルが添付されている場合は、マウスに添付のマニュアルで使用方法をご確認ください。

▶マウスの操作



- 表面が反射する場所やざらざらした場所、複雑なイラスト入りのマウスパッドの上で使用しないでください。マウスの動きがコンピューターに伝わりません。
- アプリケーションソフトによっては、ホイールボタン、戻るボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを1回カチッと押します。
ダブルクリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを2回続けてカチカチッと押します。
右クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、右ボタンを1回カチッと押します。
ドラッグアンドドロップ	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
スクロール	ホイールボタンを指先で前後に動かすと、縦スクロール操作を行うことができます。ホイールボタンをクリックすると、マウスを動かしてオートスクロールを行うこともできます。
戻る	戻るボタンを押すと、Internet Explorerやエクスプローラーなどで「戻る」の操作を行うことができます。

▶マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境の変更は、次の場所で行います。

【スタート】 - 【コントロールパネル】 - 【プリンタとその他のハードウェア】 - 【マウス】

詳しくは、ヘルプをご覧ください。

HDDを使う

HDD（ハードディスクドライブ）は、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。

本機には、シリアルATA仕様で容量が160GBのHDDが搭載されています。



制限


- HDDのアクセスランプ点灯・点滅中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点灯・点滅中は、コンピューターがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりして衝撃を与えるとHDDが故障するおそれがあります。衝撃を与えないように注意してください。また、持ち運ぶときは電源を切った状態で専用バッグに入れるなどして、保護するようにしてください。
- HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

HDD領域

本機のHDD領域は、Cドライブのみです。

▶データのバックアップ

HDDに記録されている重要なデータは、USB記憶装置などにバックアップしておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。

バックアップ方法は、 p.119 「データのバックアップ」をご覧ください。

USB機器を使う

本機にはUSB2.0に対応したUSBコネクタが前面に2個、背面に4個、合計6個搭載されています。


USBコネクタにはUSB対応の機器を接続します。6個のコネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。

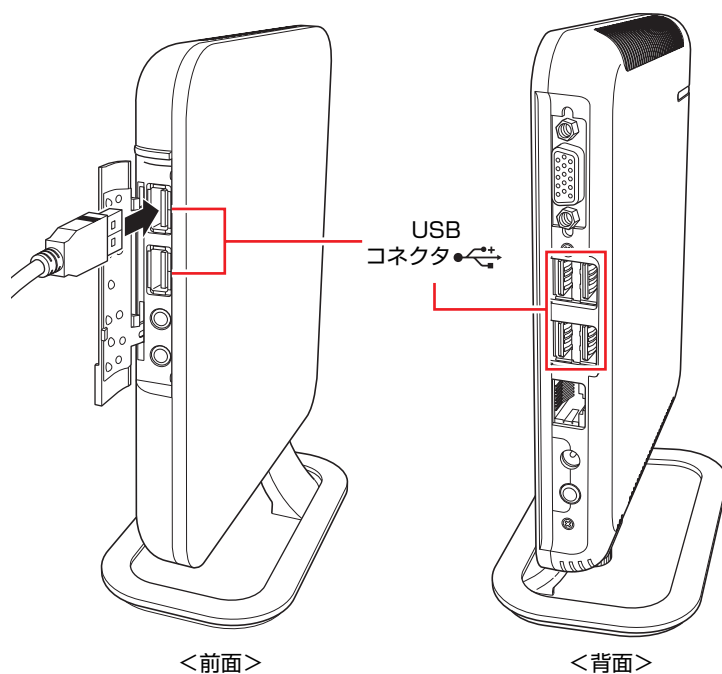
▶USB機器の接続と取り外し

USB機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

USB機器の接続

USB機器の接続方法は次のとおりです。

- 1 USB機器のUSBコネクタを、本機のUSBコネクタ（）に接続します。



2 USB機器によっては、通知領域に「取り外し」アイコンが表示されます。



<取り外しアイコン>

接続するUSB機器によっては、専用のデバイスドライバーが必要です。詳しくは、USB機器に添付のマニュアルをご覧ください。



接続したUSB機器の確認

接続したUSB機器を確認するには、「取り外し」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェアの安全な取り外し」画面で [プロパティ] をクリックします。

USB機器の取り外し

USB機器の取り外しは、コンピューターの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

- そのまま取り外す

「取り外し」アイコンが表示されていない場合や、本機の電源を切った場合はそのまま取り外せます。

- USB機器の終了処理をして取り外す

「取り外し」アイコンが表示されている場合は、終了処理を行います。

USB機器の終了処理の方法は次のとおりです。

1 通知領域の「取り外し」アイコンをクリックします。

2 表示されたメニューから「(取り外したいUSB機器) - ...を安全に取り外します」を選択します。

USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ (D:) を安全に取り外します



複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。必要に応じて、[スタート] - 「マイコンピュータ」でドライブを確認してください。

3 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、USB機器を本機から取り外します。


画面表示機能を使う

本機のマザーボード上には画面表示機能が搭載されています。
ここでは、表示するディスプレイや解像度などの設定方法について説明します。

参考

セーフモードでの起動

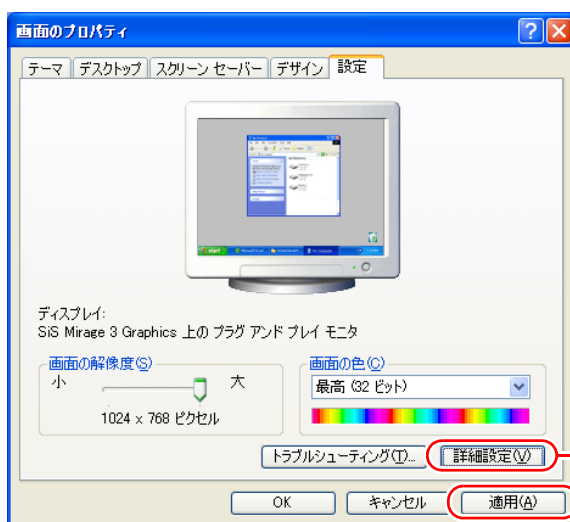
接続しているディスプレイの設定が正しくない場合や、本機の画面表示機能では表示できない解像度を選択した場合、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで再起動して再設定を行ってください。

 p.114 「セーフモードでの起動」

▶表示に関する各種設定

画面表示に関する設定は、「画面のプロパティ」の「設定」タブで行います。
設定画面は、次の場所から表示できます。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「デスクトップの表示とテーマ」
- 「画面解像度を変更する」



表示装置に関する
設定を行います。

設定値変更後に
クリックします。

▶表示できる解像度と表示色

本機の画面表示機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

- 解像度 ピクセル（横×縦）

800×600

1024×768

1280×1024

1360×768*

1440×900*

1600×1200

1680×1050*

1920×1080*

1920×1200*

*ワイド表示

- 表示色

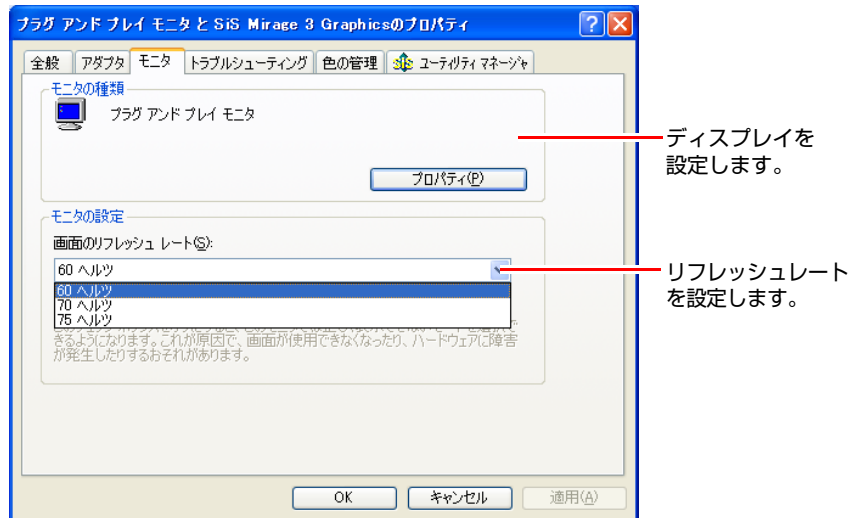
中（16ビット） / 最高（32ビット）



- 記載している解像度は、本機に搭載されたビデオコントローラーの出力解像度です。表示モードや接続するディスプレイの仕様によっては、表示できない場合があります。
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトで動画を再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてください。

▶表示装置に関する設定

画面のプロパティの「設定」タブー [詳細設定] - 「モニタ」タブでは次の設定を行うことができます。



ディスプレイの設定

通常、接続しているディスプレイは自動的に検出されて設定されますが、接続しているディスプレイによっては正しく設定されない場合があります。その場合は [プロパティ] をクリックして設定を行ってください。詳しくは、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

リフレッシュレートの設定

画面がちらつく、文字がにじむといった現象が起こるときは、リフレッシュレートを変更すると問題が解決することがあります。ディスプレイによっては、リフレッシュレートの変更ができない場合もあります。

サウンド機能を使う

本機のマザーボード上には、サウンド機能が搭載されています。
本機にスピーカーは内蔵されていません。本機からの音声を出力するには、スピーカーを接続する必要があります。



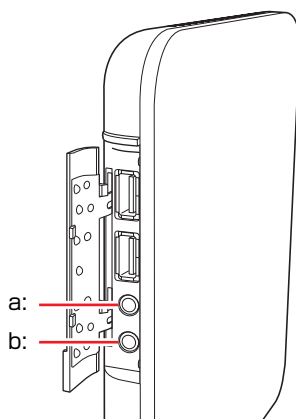
ヘッドフォンやスピーカーを使用する場合は、ボリュームを最小にしてから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。


▶オーディオ機器の接続


本機の前面と背面には、スピーカーやマイクなどのオーディオ機器を接続するためのサウンドコネクタが装備されています。

各コネクタの位置は、次のとおりです。

前面側



a: ヘッドフォン出力コネクタ 
スピーカーやヘッドフォンなどを接続します。

b: マイク入力コネクタ 
マイクを接続します。入力した音声は、本機のサウンド機能を使って、録音や再生を行うことができます。

参考

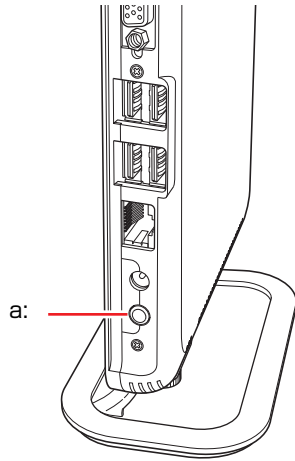
使用できるマイク


マイク入力コネクタに接続して使用できるマイクは、電源を必要とするコンデンサーマイクです。

コンデンサーマイクには、次の2種類があります。

- コンセントなどから、電源供給するタイプ
- 乾電池やコンピューターから、電源供給するタイプ

背面側



- a: ライン出力コネクタ 
- アンプ内蔵スピーカーやヘッドフォンなどを接続して、音声を出力します。

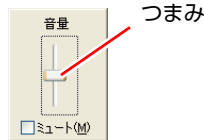
▶音量の調節

Windows使用時に音が鳴らなかつたり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合は、音量を調節します。

画面右下の通知領域に表示されている「スピーカー」アイコンをクリックすると「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。



<スピーカーアイコン>



<ボリュームコントロール>

▶音声の再生・録音

Windows標準のサウンドユーティリティを使うと、音声の再生・録音をすることができます。

音声の再生

音声の再生は「Windows Media Player」を使用します。Windows Media Playerは次の場所から起動します。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Media Player」

音声の録音

音声の録音は「サウンドレコーダー」を使用します。サウンドレコーダーは次の場所から起動します。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「エンターテイメント」 - 「サウンドレコーダー」



サウンドレコーダーでは、最長 60 秒しか録音することができません。長時間の録音を行うには、別途アプリケーションが必要です。

▶サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、音響効果などの設定ができます。サウンドユーティリティを起動するには、通知領域の「Realtek HDオーディオマネージャ」アイコンをダブルクリックします。



<Realtek HDオーディオマネージャアイコン>

次の画面が表示されます。

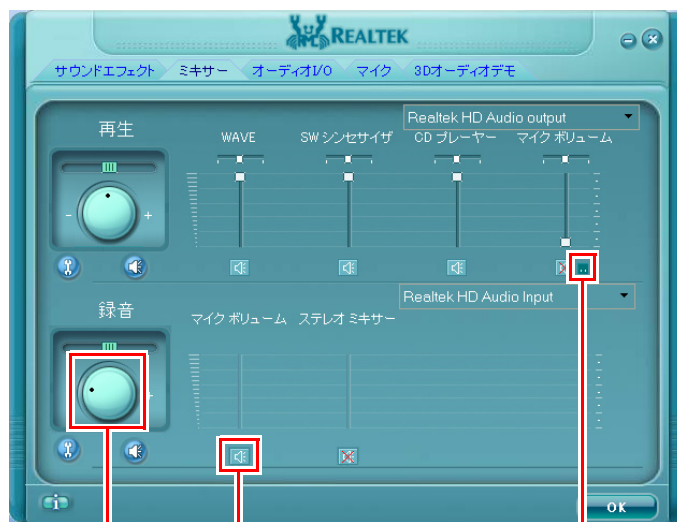


設定項目を選択します。


▶ 録音時の音量調節

本機では、録音の音量調節はサウンドユーティリティで行います。ここでは、本機に接続したマイクから録音する場合の音量調節方法を説明します。

- 1 通知領域の「Realtek HDオーディオマネージャ」アイコンをダブルクリックします。
- 2 サウンドユーティリティ画面が表示されたら、「ミキサー」タブをクリックします。
- 3 音量を調節します。



- (2) 録音時の音量を調節
- (1) ミュートでないことを確認する
- (3) マイクブーストの設定

- (1) 「録音」項目の「マイク ボリューム」がミュートになっていないことを確認します。
- (2) 録音ボリュームで音量調節します。
- (3) 音量を調節しても音が小さい場合は、 をクリックし、「トーン調整」画面で「マイク ブースト」にチェックを付けて [OK] をクリックします。

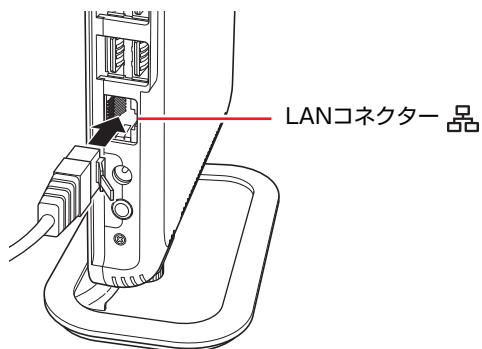
これで音量の調節は完了です。

ネットワーク機能を使う

本機のマザーボード上には、1000 Base-T/100 Base-TX/10 Base-Tに対応したネットワーク機能（LAN機能）が搭載されています。

ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。


ネットワーク機能を使用する場合は、本機背面のLANコネクタに市販のLANケーブルを接続します。



▶ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピューターと接続するために、LANケーブルやハブ（サーバー）などが必要です。そのほかに、Windows上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定などにも必要になります。ネットワークの構築方法は、ネットワーク機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。



- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
 - ・ 再起動する
 - ・ 省電力状態に移行しないように設定する
 p.57 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。
- 本機のネットワーク機能では、リピーター・ハブを使用できません。

▶インターネットへの接続

インターネットへ接続する場合は、 p.42 「インターネットに接続するには」をご覧ください。

▶ Wakeup On LAN

本機では、Wakeup On LAN機能を使用することができます。Wakeup On LANとは、ネットワークからの信号により本機を起動させる機能です。



シャットダウン状態からの起動は、Windows を正常に終了した状態でないと行えません。

Wakeup On LAN機能を有効にする

購入時、本機のWakeup On LAN機能は無効に設定されています。Wakeup On LANを行う場合は、次の設定が必要です。

<シャットダウン状態から起動させたい場合>

次の作業が必要です。

- BIOSの設定変更

<スタンバイ、休止状態から起動させたい場合>

次の2つの作業が必要です。

- BIOSの設定変更
- ネットワークドライバーの設定変更

BIOSの設定変更

「BIOS Setupユーティリティ」の次の項目を有効にしてください。

「Power」メニュー画面－「APM Configuration」

「Power On by PCI Devices」：Enabled（有効）



p.62 「BIOS Setupユーティリティの操作」



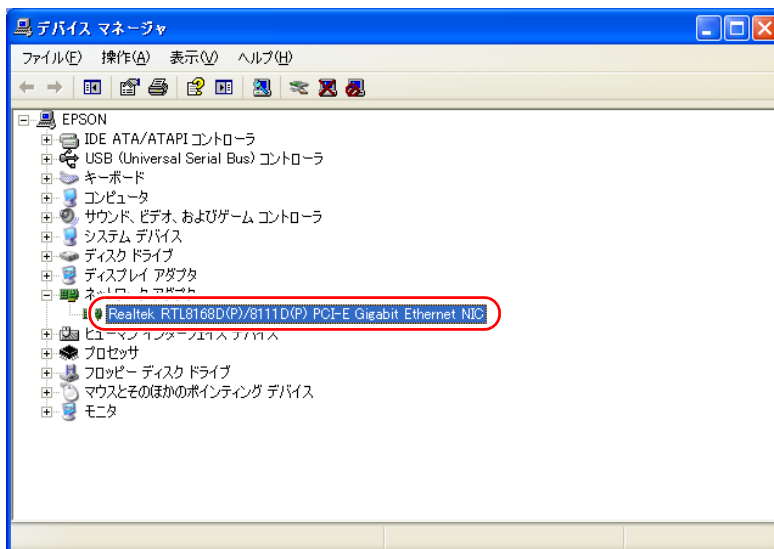
p.72 「Power メニュー画面」

ネットワークドライバーの設定変更

ネットワークドライバーの設定を変更する方法は、次のとおりです。

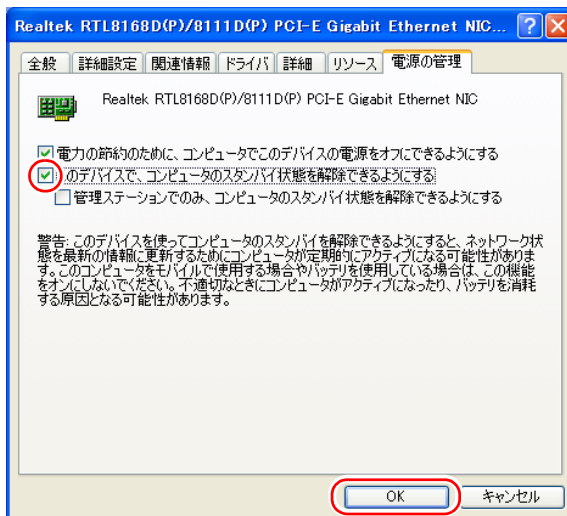
- 1 [スタート]－「コントロールパネル」－「パフォーマンスとメンテナンス」－「システム」をクリックします。
- 2 表示された「システムのプロパティ」画面の「ハードウェア」タブをクリックし、[デバイスマネージャ]をクリックします。


- 3** 表示された「デバイスマネージャ」画面の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックし、「Realtek RTL8168D(P)/・・・」をダブルクリックします。



- 4** 表示された「Realtek RTL8168D (P) /・・・」画面の「電源の管理」タブをクリックします。

- 5** 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」にチェックを入れて [OK] をクリックします。



- 6**  をクリックし、開いている画面をすべて閉じます。
これで設定は完了です。



WakeUp On LANを設定している場合

BIOSの設定で、WakeUp On LAN (Power On by PCI Devices) が有効に設定されているときに、電源コードを抜き、再び接続するとコンピューターが一瞬起動する場合があります。これは、不具合ではありません。

▶リモートブート

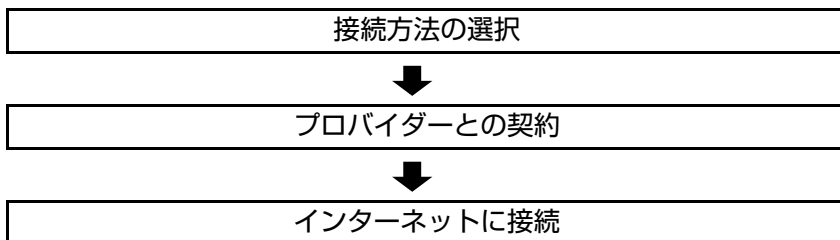
リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバー上からWindowsをインストールすることができます。

インターネットに接続するには

ホームページを見たり、電子メールをやり取りしたりするためには、インターネットへの接続が必要です。ここではインターネットへの接続の概要や、インターネットを利用するためのソフトウェアなどについて説明します。

接続するまでの流れ

インターネット接続までの流れは次のとおりです。



▶接続方法の選択とプロバイダーとの契約

インターネットに接続するには、接続方法を決め、その接続方法でサービスを提供しているプロバイダー（インターネットサービスプロバイダー、ISP）と契約します。

接続方法は、目的や使い方に合わせて選択しましょう。また、同じ接続方法でも、通信速度や料金、サポート内容はプロバイダーによって異なります。詳しい内容はプロバイダーにお問い合わせください。

接続方法の種類

高速なインターネット接続をブロードバンドと言い、光ファイバー、ADSL、CATVなどを利用した接続がそれにあたります。また、アナログ電話回線、ISDNなどでの低速な接続をナローバンドと言います。

接続方法	接続環境	インターネットでの通信速度イメージ
光ファイバー	ブロードバンド	
ADSL		
CATV		
ISDN	ナローバンド	
PHS		
携帯		
アナログ		

インターネット接続の方法には、主に次のようなものがあります。

- **光ファイバー (FTTH)**

ほかのブロードバンド接続と比べても、数段に速く安定しているため、映像などの大量のデータ転送も無理なくできます。また、インターネットと合わせてテレビや電話も利用することができます。

ただし、接続料金が高く、非対応の地域があります。

- **ADSL**

電話回線を利用します。インターネットをストレスなく使えます。通信速度は、プロバイダーのプランから使い方に合わせて選ぶことができます。

利用電話局からの距離が遠くなるにつれ速度が遅くなってしまいますので、事前に速さの確認をする必要があります。

- **CATV**

ケーブルテレビのケーブルを利用します。インターネットをストレスなく使えます。

- **その他の接続方法 (ナローバンド)**

アナログ電話回線やISDN回線などを使った低速な接続方法があります。

 **参考**

ダイヤルアップ接続

ブロードバンドは常時接続が一般的ですが、ナローバンドでは、必要時に電話回線を通じてインターネットに接続します。この作業をダイヤルアップ接続と言います。

必要な機器

インターネット接続に必要な機器は接続方法によって異なります。詳しくは各プロバイダーにお問い合わせください。

▶ インターネットに接続する

プロバイダーと契約すると、メールアドレスやパスワードなどインターネットへの接続に必要な情報と、接続手順が記載された説明書がプロバイダーより提供されます。説明書に従って接続作業を行ってください。

 **参考**

再インストール後のインターネット接続

Windowsを再インストールした場合は、インターネットに接続するための設定作業が再度必要になります。プロバイダーからの説明書は失くさないように大切に保管してください。


▶インターネットを使う上での注意

インターネットを使用すると、簡単に情報を得ることができたり、手軽にメッセージを送ったりすることができますが、その反面注意しなければならないことがあります。次の点に気を付けてインターネットを使用してください。

- 電子メールは途中経路の障害などにより、届かない場合もあります。
- 電子メールは世界中の多くのコンピューターを経由して届けられるため、第三者に内容を見られる可能性があります。
- インターネット上の情報は、必ずしも正しいとは限りません。正しい情報であるかどうかを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。
- 安易に個人情報をホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると、悪用されることがあります。また、他人の個人情報を断りなくホームページに掲載したり、電子メールで送ったりすると法律で罰せられます。
- ホームページからダウンロードするデータによっては、本機が障害を被ることがあります。
- コンピューターウイルスに感染すると、本機が障害を被る可能性があります。また、無許可のユーザーにインターネットを介して本機にアクセスされる可能性もあります。

ウイルスに感染する主な原因は次のとおりです。

- ・ ウイルスが添付されたメールを受信する
- ・ 悪質なプログラムが起動するホームページを閲覧する

これらの危険から本機を守る方法については、 p.47 「インターネットを使用する際のセキュリティー対策」をご覧ください。

▶インターネットや電子メールを利用する

本機では、次のソフトウェアを使用してインターネットや、電子メールを利用します。

- ホームページの閲覧：Internet Explorer（インターネットエクスプローラー）
- 電子メールの利用：Outlook Express（アウトルックエクスプレス）

各ソフトウェアの使用方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」

Outlook Expressの初期設定

Outlook Expressをはじめて起動した際に「インターネット接続ウィザード」画面が表示された場合は、初期設定を行います。

初期設定では、メールアドレスなどの接続に必要な情報を入力します。これらの情報は、プロバイダーから提供された説明書をご覧ください。

初期設定方法は次のとおりです。

- 1** [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Outlook Express」をクリックします。
- 2** 「インターネット接続ウィザード」画面で「名前」と表示されたら、名前を入力して [次へ] をクリックします。
- 3** 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダーから取得したメールアドレスを入力して [次へ] をクリックします。
- 4** 「電子メールサーバー名」と表示されたら、プロバイダーから指定されている受信メールサーバーと送信メールサーバーを入力して [次へ] をクリックします。
- 5** 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダーから指定されているメールアカウントとメールパスワードを入力して [次へ] をクリックします。
- 6** 「設定完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。



参考

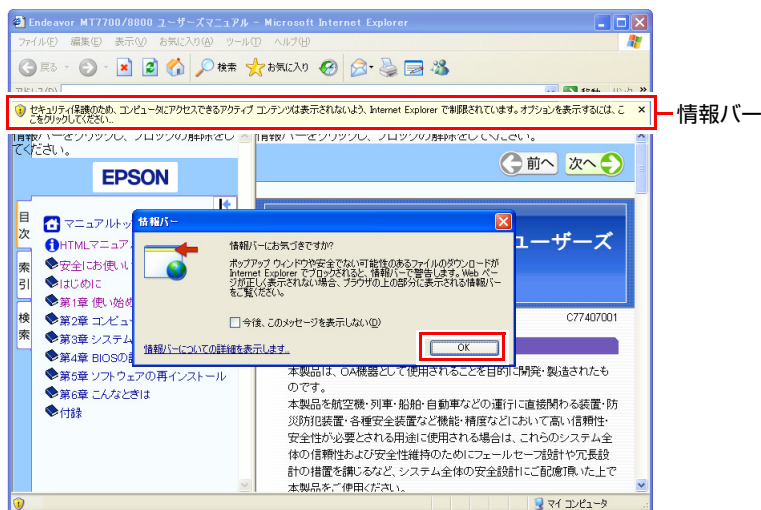
初期設定をあとから行う

「Outlook Express」の次の場所から設定を行うことができます。

「ツール」メニュー - 「アカウント」 - [追加] - 「メール」

Internet Explorerで情報バーが表示されたら

購入時のInternet Explorerは、セキュリティ強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するように設定されています。Internet Explorer使用時に「情報バー」画面が表示されたら、[OK] をクリックして画面を閉じ、「情報バー」をクリックして、表示された項目から適切な対処をしてください。



Internet Explorerの便利な追加機能

本機にはInternet Explorerの便利な機能として、次のソフトウェアが添付されています。購入時にはインストールされていないので、必要に応じてインストールしてください。

- JWord

「JWord」を使うと、Internet Explorerのアドレスバーを利用して、日本語で簡単にインターネットを検索できます。

- gooスティック

「gooスティック」を使うと、検索機能や辞書機能をいつでも利用することができます。インストールすると、Internet Explorerのツールバーに検索サービス「goo」の検索ボックスが設定されます。

- マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版

Internet Explorerのツールバーに、「McAfee SiteAdvisor」ボタンが設定され、Webサイトの安全性評価を確認できます。マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版の詳しい使い方は、ボタンから「ヘルプ」をご覧ください。

インターネットを使用する際のセキュリティー対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうるコンピューターウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対するセキュリティー機能が備えられています。ここでは、このセキュリティー機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピューターの安全を守るため、必ずセキュリティー対策を行ってください。

▶ Windows Update

「Windows Update」は、本機のWindowsの状態を診断し、Windowsの更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。Windowsを最新の状態にするため、Windows Updateを行ってください。

はじめてインターネットに接続したときは

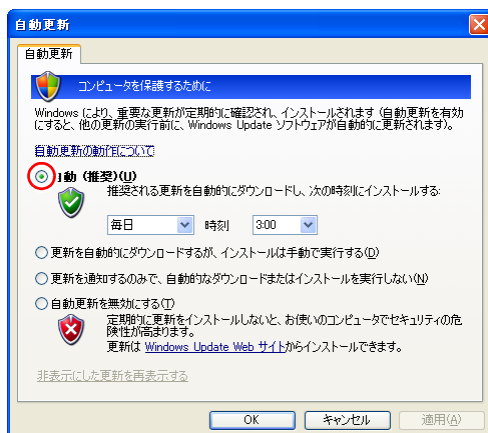
はじめてインターネットに接続したときや、Windowsの再インストールをした場合は、手動でWindows Updateを行ってください。
手動でWindows Updateを行う方法は、次のとおりです。

- 1 「スタート」 - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Update」をクリックします。
- 2 Windows Updateのホームページが表示されたら、ホームページの記載に従って更新プログラムをダウンロード、インストールします。

自動更新の設定

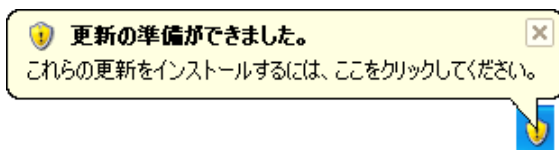
本機は、自動的にWindows Updateが行われるよう、自動更新の設定がされています。そのままお使いください。
自動更新の設定がされていると、インターネットに接続時、更新プログラムが自動的にダウンロードされ、設定時刻に自動でインストールされます。
設定時刻に本機が起動していない場合は、次回起動時に自動でインストールされます。
自動更新は次の場所で設定されています。

「スタート」-「コントロールパネル」-「セキュリティセンター」-「自動更新」



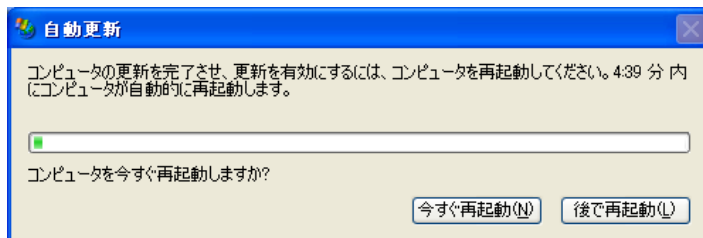
「更新の準備ができました。」と表示されたら

インターネットに接続時、更新プログラムが自動的にダウンロードされると、画面右下に「更新の準備ができました。」と表示されます。インストールの設定時刻になる前に更新プログラムをインストールしたい場合は、通知アイコンをクリックし、インストールをしてください。



「自動更新」画面が表示されたら

インストールの設定時刻（または次回起動時）に更新プログラムの自動インストールが行われると、「自動更新」画面が表示されます。作業中の場合はデータを保存してください。本機が再起動したら、インストールは完了です。



▶セキュリティソフトウェア

コンピューターウイルスは、インターネット上やメールの添付ファイルなどから感染する悪意のあるプログラムです。

コンピューターウイルスに感染すると、本機の動作が不安定になったり、保存してあるファイルが破壊されるなどの被害が発生します。

ウイルス感染を防ぐために、必ずウイルス対策を行ってください。

Norton Internet Security 90日版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能、フィッシング詐欺検出機能を備えた「Norton Internet Security 90日版」が添付されています。購入時にNorton Internet Security 90日版はインストールされていませんので、必要に応じてインストールを行ってください。詳しくは、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』（別冊）をご覧ください。



更新サービスの有効期限

本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」は、製品版ではありません。更新サービスの有効期限は、インストール後90日間です。90日経過後は、更新サービスの延長キー（有償）を購入すると、1年間使用可能です。更新サービスの詳細は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

市販のセキュリティソフトウェアを使う

市販のセキュリティソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、Norton Internet Security 90日版はインストールしないでください。インストールしていた場合は、アンインストール（削除）してください。アンインストール方法は、『セキュリティソフトウェアをご使用の前に』をご覧ください。

▶ファイアウォール

インターネットに接続していると、不正なアクセスにより、本機のデータやプログラムを勝手に見られたり、改ざんされたり、破壊されたりする可能性があります。「ファイアウォール」は、これらの不正アクセスを検出し、遮断する機能です。不正アクセスを遮断するため、必ずファイアウォール機能を使用してください。

Norton Internet Security 90日版のファイアウォール機能

本機に添付の「Norton Internet Security 90日版」には、ファイアウォール機能が備えられています。「Norton Internet Security 90日版」のインストールを行うと、自動的にファイアウォール機能が有効になりますので、そのままお使いください。

Windowsファイアウォールの設定

本機には、Windowsのファイアウォール機能が備えられています。本機の状態によって、Windowsファイアウォールを次のように設定してください。

<ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用している場合>

ファイアウォール同士の競合を防ぐため、Windowsファイアウォールを「無効」に設定してください。ソフトウェアによっては、Windowsファイアウォールが自動で「無効」に設定される場合があります。

<ファイアウォール機能を持つソフトウェアを使用しない場合>

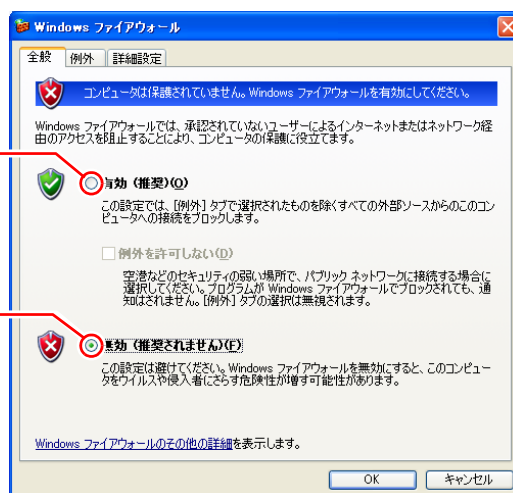
Windowsファイアウォールを「有効」に設定してください。

Windowsファイアウォールの有効/無効の設定は、次の場所から行います。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「セキュリティセンター」 - 「Windowsファイアウォール」

ファイアウォールソフトを使用しない場合に選択

ファイアウォールソフトを使用する場合に選択




▶Webフィルタリングソフトウェア

Webフィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを見せないようにするための技術です。Webフィルタリングは万全ではありません。ただし、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。

i-フィルター 30日版を使う

本機には、「Webフィルタリング」機能を持つ「i-フィルター 30日版」が添付されています。家庭内でお子様がコンピューターを使用する際に、有害なサイトへのアクセスを制限したいときなどは、i-フィルター 30日版を使用することをおすすめします。

i-フィルター 30日版のインストール

購入時、本機にはi-フィルター 30日版はインストールされていません。インストール方法は、 p.87 「i-フィルター 30日版のインストール」をご覧ください。

市販のWebフィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i-フィルター 30日版はインストールしないでください。

i-フィルター 30日版の使用方法

i-フィルター 30日版をインストールすると、フィルター設定が有効になり、有害サイトにアクセスしようとする、自動的にブロックされます。

初期設定では、フィルター強度は中学生向けです。フィルター強度は、ユーザー別に設定できます。必要に応じて、「フィルタリング設定」画面で設定を変更してください。

「フィルタリング設定」画面の表示方法は、次のとおりです。


1 デスクトップ上の「i-フィルター」アイコンをダブルクリックします。



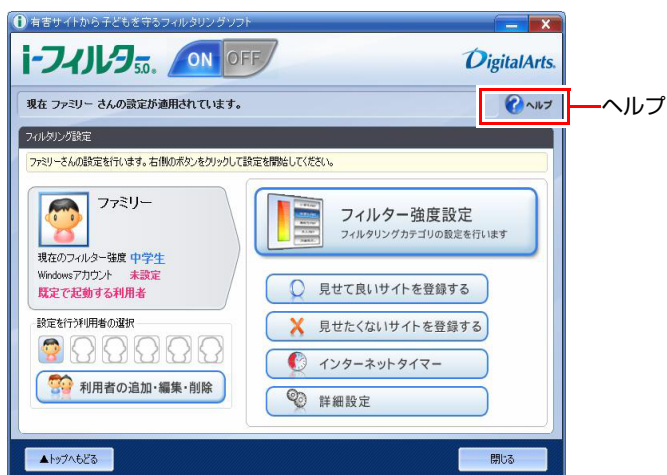
<i-フィルターアイコン>

「i-フィルター…」画面が表示された場合は、ユーザー登録が完了していません。

ユーザー登録完了後に、設定を行ってください。

 p.88 「i-フィルター 30日版のユーザー登録」

- 2 「管理パスワードの入力」画面が表示されたら、管理パスワードを入力して [OK] をクリックします。
- 3 「i-フィルター」の「トップページ」が表示されたら、「フィルタリング設定」をクリックします。
「フィルタリング設定」画面が表示されます。
i-フィルター 30日版の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。



ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合は、セキュリティーソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「i-フィルター 30日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。この場合は、「i-フィルター 30日版」の使用を許可してください。

i-フィルター 30日版の利用期限

i-フィルター 30日版の利用期限は、セットアップ後30日間です。利用期限が過ぎると、フィルター機能が停止します。

<継続して利用する場合>

継続利用の手続き（有償）をオンラインで行ってください。

 p.53 「i-フィルター 30日版のサポート」



本機に添付の i-フィルター 30 日版は、「i-フィルター更新パック」で継続利用手続きを行うことはできません。

<継続して利用しない場合>

i-フィルター 30日版のアンインストールを行ってください。

i-フィルター 30日版のアンインストール方法は、デジタルアーツ社のホームページの「よくある質問」をご覧ください。



p.53 「i-フィルター 30日版のサポート」

i-フィルター 30日版のサポート

i-フィルター 30日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。

よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。

なお、このサポート情報は、予告なく変更される場合があります。


<http://www.daj.jp/cs/support.htm>

省電力機能を使う

省電力機能を利用すると、本機を使用していない間、本機が省電力状態に移行して消費電力を抑えることができます。

▶ 省電力機能使用時の制限

省電力機能を使用する際には、次のような制限事項があります。使用する前に確認して、正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は省電力状態に移行しないことがあります。
 - ・ 周辺機器を接続している
 - ・ ソフトウェアを起動している
- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。
 -  p.57 「時間経過で移行させない」
 - ・ サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
 - ・ 外部接続記憶装置（USB FDDや外付け光ディスクドライブなど）へのデータ書き込み時：データ破損の可能性
 - ・ ネットワーク機能などを使っての通信時：通信が切断される可能性
 - ・ 動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
 - ・ 省電力状態で、周辺機器の抜き差しを行った場合
 - ・ ネットワーク上のファイルなどを開いたまま、省電力状態に移行した場合
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。

▶省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

- HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切ります。省電力の効果はスタンバイより低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。

- スタンバイ

作業内容をメモリーに保存した状態で本機の動作を中断します。メモリー以外の電源が切れるため、電力消費はほとんどありません。



参考

スタンバイが正常に動作しない場合

相性の良くない周辺機器などを使用している可能性があります。その場合、「BIOS Setupユーティリティ」の設定を次のように変更してください。設定を変更した場合の電力消費は、通常より若干抑えられる程度になります。

「Power」メニュー画面

Suspend to RAM : Disabled



p.62 「BIOS Setupユーティリティの操作」

- 休止状態

作業内容をHDDに保存して電源を切ります。本機の電源を切った状態と同様に電力を消費しません。通常の状態への復帰には多少時間がかかります。休止状態を有効にするためには設定が必要です。



p.56 「休止状態を有効にする」



制限

スタンバイを実行しているときに電源コードが抜けたりすると、メモリーへの電源供給が切れてしまい、次に本機の電源を入れたときに正常に起動しません。この場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れてみてください。

電源ランプの表示

省電力状態は、電源ランプの表示により確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常	点灯（青色）
HDD/ディスプレイの電源切断	点灯（青色）
スタンバイ	点滅（青色）
休止状態	消灯
電源切断時	消灯

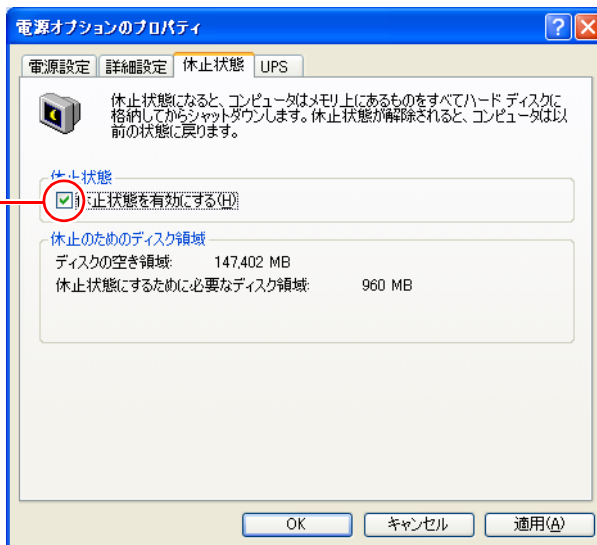
休止状態を有効にする

「休止状態」を有効にすると、本機の電源を切った状態と同様に、電力の消費を抑えることができます。

休止状態の設定は、次の場所から行います。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」
- 「電源オプション」 - 「休止状態」タブ - 「休止状態を有効にする」

「休止状態を有効にする」にチェック



<イメージ>

▶省電力状態に移行する

省電力状態に移行する方法には、次の2つがあります。

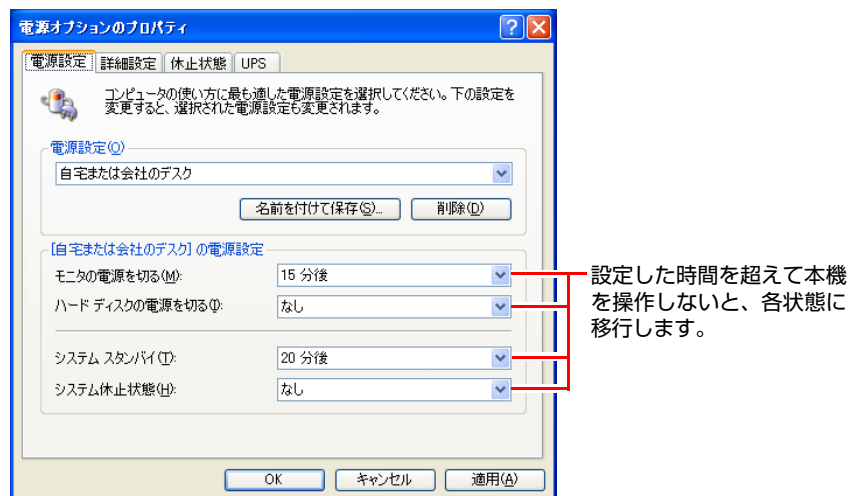
- 時間経過で移行する
設定した時間を超えて本機を操作しないと、省電力状態に移行します。
- 直ちに移行する
席を外すときなどに、手動で省電力状態に移行します。

省電力状態に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」
- 「電源オプション」

時間経過で移行する

省電力状態に移行する時間の設定は、「電源設定」タブの画面で行います。



時間経過で移行させない

外部接続記憶装置（USB FDDや外付け光ディスクドライブなど）へデータの書き込みを行う場合などは、時間経過による省電力状態への移行を無効に設定します。

時間経過による省電力状態への移行を無効にするには、すべての項目の時間設定を「なし」に設定します。

直ちに移行する

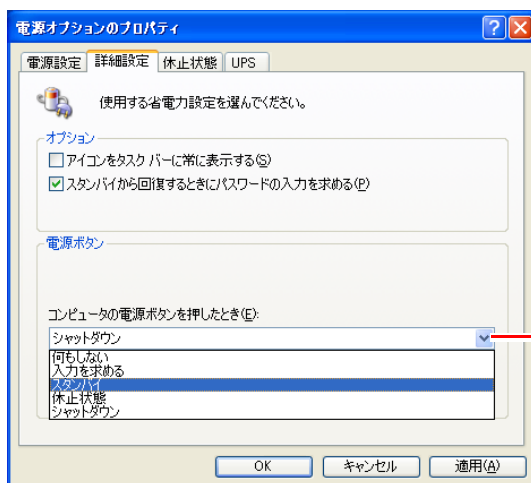
手動で「スタンバイ」または「休止状態」に移行する方法は、次のとおりです。

- [スタート] – 「終了オプション」から選択し、移行する

「コンピュータの電源を切る」画面で **[Shift]** を押し、スタンバイではなく休止状態を選択できるようになります。

- 電源スイッチを押して移行する

電源スイッチを押したときにどの状態に入るかを、あらかじめ「詳細設定」タブの画面で設定しておきます。



電源スイッチを押したときの動作を設定します。

▶ 省電力状態から復帰する

本機を省電力状態から通常の状態に戻す方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプ	復帰方法
HDD/ディスプレイの電源が切れている状態	点灯 (青色)	キーボードやマウスを操作する
スタンバイ	点滅 (青色)	<ul style="list-style-type: none"> ● 電源スイッチを押す ● キーボードを操作またはマウスをクリックする
休止状態	消灯	電源スイッチを押す

第2章 BIOSの設定

本機の基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

「BIOSの設定を始める前に」	60
「BIOS Setupユーティリティーの操作」	61
「BIOS Setupユーティリティーの設定項目」	70

BIOSの設定を始める前に



当社製以外の BIOS を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOSは、コンピューターの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、マザーボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- マザーボード上の機能を有効/無効にする場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。

BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリー領域に保存されます。このメモリーはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。

参考



リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約5年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。

そのような場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す。
万一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。
 p.70 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」
- 初期値や、前回保存した設定値に戻す。
 p.65 「設定値を元に戻す」

BIOS Setupユーティリティーの操作

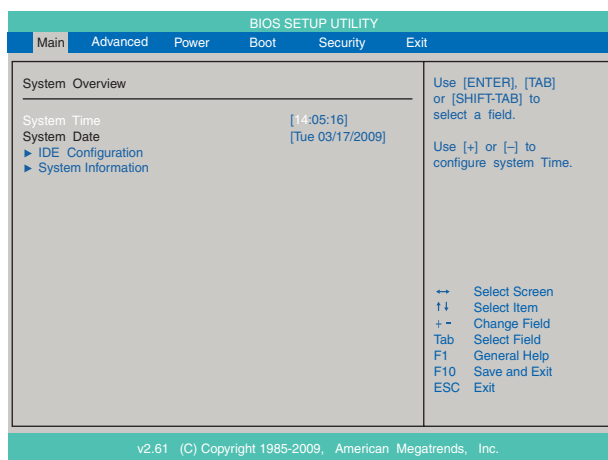
ここでは、「BIOS Setup ユーティリティー」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- パスワードを設定する
- HDDアクセス制限

▶ BIOS Setupユーティリティーの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの **[Delete]** の位置を確認してください。
手順2ではすばやく **[Delete]** を押す必要があります。

- 1 本機の電源を入れます。**
すでにWindowsが起動している場合は再起動します。
- 2 本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐにキーボードの **[Delete]** を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。**
Windowsが起動してしまった場合は、再起動して手順2をもう1度実行してください。
- 3 「BIOS Setupユーティリティー」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。**




<BIOS Setupユーティリティー画面 (イメージ)>

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合は、本機の電源を入れたときに、次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to Run SETUP
Press F2 to load default values and continue

このメッセージが表示されたら **F1** を押してBIOS Setupユーティリティを起動します。通常は、そのまま「Save Changes and Exit」を実行してBIOS Setupユーティリティを終了します。

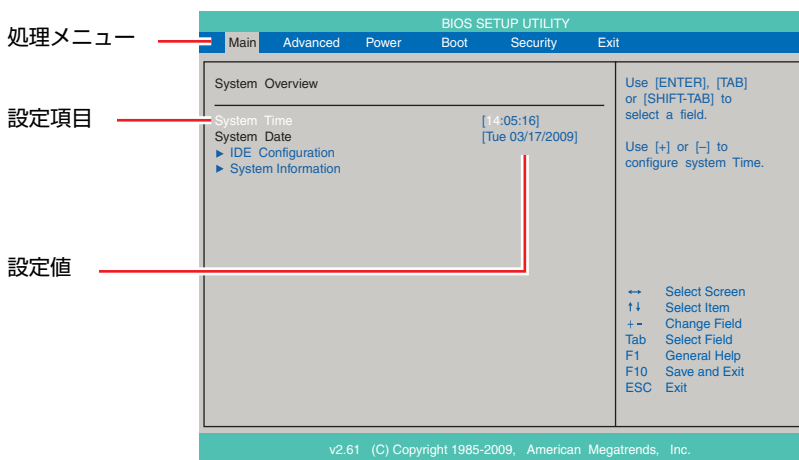
 p.65 「BIOS Setupユーティリティの終了」

▶ BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

画面の構成

BIOS Setupユーティリティを起動すると次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。



<メニュー画面>

ここで説明している画面は、イメージです。実際の設定項目とは異なります。各メニュー画面と設定項目の説明は、 p.70 「BIOS Setupユーティリティの設定項目」をご覧ください。

操作方法

BIOS Setupユーティリティの操作方法是次のとおりです。

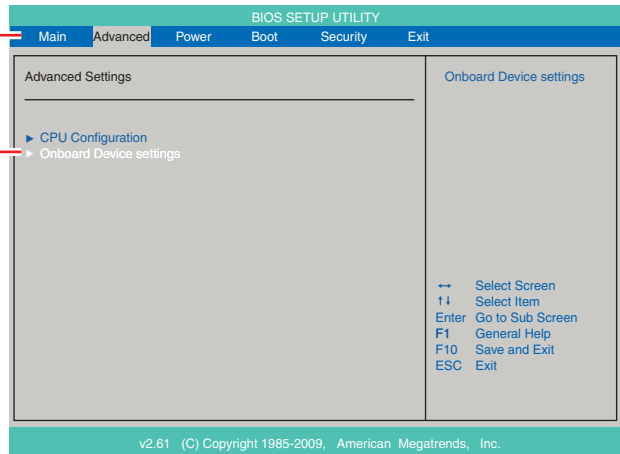
- 1 処理メニューで設定を変更したい項目のあるメニュー画面に移動し、設定項目を選択します。

→ ← でメニュー間を移動します。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。

処理メニュー

設定項目を
選択



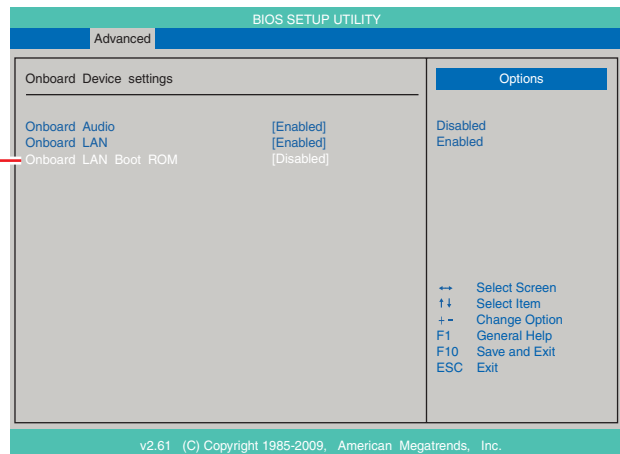
<メニュー画面>

<▶のある項目の場合>

▶のある項目の場合、↵を押すとサブメニュー画面が表示されます。

↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。

設定項目を
選択

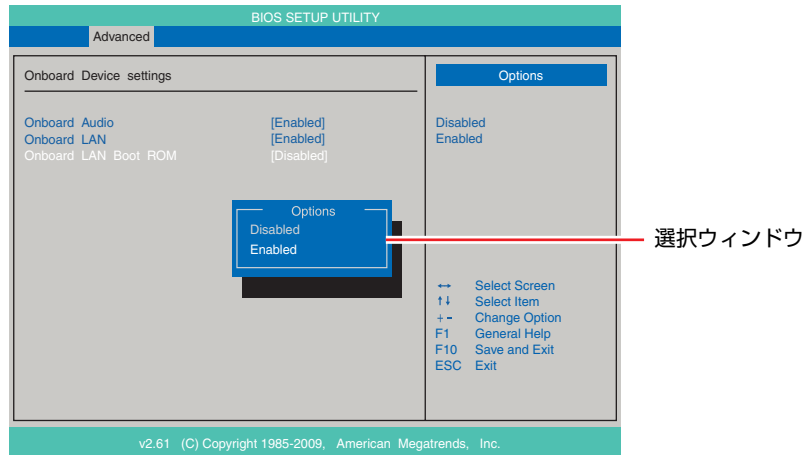


<サブメニュー画面>

サブメニュー画面から戻るには **Esc** を押します。

2 設定値を変更します。

◀を押して選択ウィンドウを表示し、↑、↓で値を選択し、◀で決定します。



キー操作

BIOSの画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
Esc	<ul style="list-style-type: none"> ● 変更した内容を破棄し、終了します。 ● サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
↑, ↓	設定を変更する項目を選択します。
←, →	処理メニューを選択します。
-, +	項目の値を変更します。
◀	<ul style="list-style-type: none"> ● メニュー画面中の▶のある項目で押すとサブメニュー画面を表示します。 ● 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 ● 設定値を選択します。
F5	全設定項目の値を初期値に変更します。
F7	前回保存した設定値に戻します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。

▶BIOS Setupユーティリティーの終了

「BIOS Setupユーティリティー」を終了するには、次の2つの方法があります。

Save Changes and Exit (変更した内容を保存し終了する)

変更した設定値を保存して、BIOS Setupユーティリティーを終了します。

- 1 **F10** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit setup?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 [OK] を選択し、**↵** を押します。

Discard Changes and Exit (変更した内容を破棄し終了する)

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setupユーティリティーを終了します。

- 1 **Esc** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes and Exit」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard changes and exit setup?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 [OK] を選択し、**↵** を押します。

▶設定値を元に戻す

「BIOS Setupユーティリティー」の設定を間違えてしまい、万一、本機の動作が不安定になってしまった場合などには、BIOS Setupユーティリティーの設定を初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup Defaults (初期値に戻す)

BIOS Setupユーティリティーの設定を初期値に戻す方法は、次のとおりです。

- 1 **F5** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。


Load Setup Defaults ?	
[Ok]	[Cancel]

- 2 [OK] を選択して、**↵** を押します。

Load Setup Defaults実行後の作業

次の場合は、Load Setup Defaultsを実行したあとに、BIOSの設定値を設定しなおしてください。

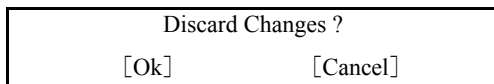
設定を行ったら、変更した内容を保存して終了します。

 p.65 「Save Changes and Exit (変更した内容を保存し終了する)」

Discard Changes (前回保存した設定値に戻す)

BIOS Setupユーティリティを終了せずに、前回保存した設定値に戻します。

- 1 **F7** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。



- 2 **[Ok]** を選択して、**↵** を押します。

▶パスワードを設定する

「Security」メニュー画面でBIOSのパスワードを設定すると、BIOSやWindowsの起動時にパスワードを要求されるようになります。


パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき
(HDDアクセス制限など)

パスワードの種類


パスワードには次の2種類があります。

- Supervisor Password (管理者パスワード)
コンピューターの管理者用のパスワードです。管理者パスワードでBIOSにログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
- User Password (ユーザーパスワード)
一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードでBIOSにログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます(権限は、設定変更することができます)。


 p.68 「ユーザーパスワードの権限設定」

パスワードの設定方法

パスワードの設定方法は、次のとおりです。


- 1 「Change Supervisor Password」または「Change User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password


- 2 パスワードを入力し、 を押します。


「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。パスワードとして使用できるのは英数字だけです。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、 を押します。

Confirm New Password

同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match!」というメッセージが表示されます。[Ok] が選択された状態で  を押すと、BIOSのメニュー画面に戻ります。この場合、手順1からやりなおしてください。

- 4** 「Password installed.」というメッセージが表示されたら、[Ok] が選択された状態で  を押します。

パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」または「User Password」項目の値が「Installed」に変わります。




設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOSの設定変更や、設定によってはWindowsの起動ができなくなります。万一、パスワードを忘れた場合は、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

続いて、「ユーザーパスワードの権限」や、「どこでパスワードを要求するか」を決めて設定します。


ユーザーパスワードの権限設定

ユーザーパスワードを設定した場合は、ユーザーパスワードでBIOSにログオンしたときの権限（項目の閲覧や変更に関する制限）を設定します。

 p.74 「Securityメニュー画面」－「User Access Level」


パスワード入力タイミングの設定

BIOS Setupユーティリティ起動時や、Windows起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。


 p.74 「Securityメニュー画面」－「Password Check」

パスワードの削除方法


管理者パスワードおよびユーザーパスワードの削除方法は、次のとおりです。パスワードを削除する場合は、管理者パスワードでBIOSにログオンしてください。管理者パスワードを削除すると、自動的にユーザーパスワードも削除されます。

- 1** 「Change Supervisor Password」または「Change User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password

- 2** 何も入力せずに  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Password uninstalled.
[Ok]

- 3** 「Ok」が選択された状態で  を押します。

「Supervisor Password」または「User Password」の表示が「Not Installed」に変わります。

これでパスワードが削除されました。

▶HDDアクセス制限

HDDアクセス制限の設定をすると、次の状態になります。


- BIOSやWindows起動時、休止状態からの復帰時に管理者パスワードを要求されるようになる
- HDDをほかのコンピューターに接続した場合、認識されないようになる

HDDへの無断アクセスや、万が一HDDが盗難にあった場合の情報流出を防ぎたいときは、HDDアクセス制限の設定をします。

HDDアクセス制限の設定方法


HDDアクセス制限の設定方法は次のとおりです。

1 管理者パスワードを設定します。

 p.67 「パスワードの設定方法」

2 HDDアクセス制限の設定をします。


「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を「Enabled」に設定します。

 p.74 「Securityメニュー画面」

解除方法

HDDアクセス制限の解除方法は次のとおりです。

1 「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を「Disabled」に設定します。

 p.74 「Securityメニュー画面」



パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定したHDDは使用できなくなります。

登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。

BIOS Setupユーティリティーの設定項目

ここでは、「BIOS Setupユーティリティー」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティーのメニュー画面には、次の6つのメニューがあります。

- Mainメニュー画面
日付、時間の設定や本機の仕様を表示します。
- Advancedメニュー画面
CPUに関する設定、マザーボード上の機能やデバイスの設定などを行います。
- Powerメニュー画面
省電力機能や起動に関する設定を行います。
- Bootメニュー画面
システムの起動（Boot）に関する設定を行います。
- Securityメニュー画面
パスワードやセキュリティに関する設定を行います。
- Exitメニュー画面
BIOS Setupユーティリティーを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻したりします。

▶ Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間の設定や本機の仕様を表示します。設定項目は、次のとおりです。

___は初期値
*は項目表示のみ

System Time		時刻を設定します。(時間:分:秒)の順で表示されます。	
System Date		日付を設定します。(曜日 月/日/年)の順で表示されます。	
IDE Configuration HDDの仕様を表示します。	1st Drive	* Device	機器の種類を表示します。
		* Vendor	HDDの型番を表示します。
		* Size	HDDの容量を表示します。
		* Ultra DMA	HDDのUltra DMA転送モードを表示します。
System Information 本機の仕様を表示します。	* AMI BIOS	BIOSの情報を表示します。	
	* Version	BIOSのバージョンを表示します。	
	* Build Date	BIOSのバージョンの制定日を表示します。	
	* Processor	CPUの情報を表示します。	
	* Type	CPUの型番を表示します。	
	* Speed	CPUの周波数を表示します。	
	* Count	CPUコアの数を表示します。	
	* System Memory	本機に搭載されているメモリーの情報を表示します。	
* Size	メモリー容量を表示します。		

▶ Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、CPUに関する設定、マザーボード上の機能やデバイスの設定などを行います。

設定項目は、次のとおりです。

____は初期値


*は項目表示のみ

CPU Configuration 本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。	* Manufacturer	メーカーを表示します。
	* Type	型番を表示します。
	* Frequency	周波数を表示します。
	* FSB Speed	バススピードを表示します。
	* Cashe L1	CPUのL1キャッシュ容量を表示します。
	* Cache L2	CPUのL2キャッシュ容量を表示します。
	* Ratio Actual Value	ベースクロックに対する倍率を表示します。
Onboard Device Settings マザーボード上のデバイスに関する設定を行います。	Onboard Audio	マザーボード上のサウンド機能を使用するかを設定します。 Disabled : 使用しません。 <u>Enabled</u> : 使用します。
	Onboard LAN	マザーボード上のネットワーク機能を使用するかを設定します。 Disabled : 使用しません。 <u>Enabled</u> : 使用します。
	Onboard LAN Boot ROM	リモートブート機能の有効/無効を設定します。 <u>Disabled</u> : 無効にします。 Enabled : 有効にします。 [Enabled] に設定して再起動すると、「Boot」メニュー画面-「Boot Device Priority」に「4th Boot Device」として表示されません。

▶Power メニュー画面

「Power」メニュー画面では、省電力機能や起動に関する設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

___は初期値
*は項目表示のみ

Suspend to RAM		スリープの設定をします。 Disabled : ディスプレイなどの電源が切れます。電力消費は通常より若干抑えられる程度です。 Enabled : メモリー以外の電源が切れます。消費電力はほとんどありません。
APM Configuration 起動する方法や条件を設定します。	※Power On by PCI Devices	ネットワークからの信号により本機を起動できるようにするかどうかを設定します。 詳細は  p.39 「Wakeup On LAN」をご覧ください。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。
	Power On by RTC Alarm	コンピューターを指定した時間に起動させる設定をします。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。
	RTC Alarm Date (Days)	「Power On by RTC Alarm」を「Enabled」に設定すると表示されます。起動させる日を設定します。
	System Time	「Power On by RTC Alarm」を「Enabled」に設定すると表示されます。起動させる時間を設定します。
	Restore on AC Power Loss	電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかを設定します。 分電盤などによる複数のコンピューターの同時起動を行うと、コンピューターの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。 Power Off : 電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Power On : 電源オフ時に、電源スイッチを押さなくても、電源が供給されるとコンピューターが起動します。 Last State : コンピューターの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断されたあとに電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピューターが起動します。コンピューターを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピューターは起動しません。

※ Enabled (有効) に設定しているときに、電源コードを抜き、再び接続すると、コンピューターが一瞬起動する場合がありますが、不具合ではありません。

▶ Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。


____は初期値

*は項目表示のみ

Boot Settings Configuration	Full Screen Logo	コンピューター起動時にロゴを表示するかを設定します。 Disabled: 表示しません。 Enabled: 表示します。
	Bootup Num-Lock	DOS起動時のNumLockの状態を設定します。 Off: NumLockが押されていない状態にします。 On: NumLockが押された状態にします。
Boot Device Priority Windowsを起動するドライブの順番を設定します。	1st Boot Device	1番目に起動するドライブを設定します。外付け光ディスクドライブを接続した場合、初期値は、外付け光ディスクドライブ「USB: (外付け光ディスクドライブの型番)」です。外付け光ディスクドライブを接続していない場合は、本機に搭載のHDDが設定されます。
	2nd Boot Device	2番目に起動するドライブを設定します。外付け光ディスクドライブを接続した場合、初期値は、本機に搭載のHDD「SATA: (HDDの型番)」です。
	3rd Boot Device	3番目に起動するドライブを設定します。USB機器（光ディスクドライブ以外）を接続した場合、初期値は、「USB: (USB機器の型番)」です。
	4th Boot Device	ネットワークから起動する場合に使用します。「Advanced」メニュー画面－「Onboard Device Settings」－「Onboard Lan Boot ROM」を「Enabled」に設定してから「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択してBIOSを終了します。再度BIOSを起動すると表示されます。初期設定は「Network:Realtek Bo」です。
Hard Disk Drives	* 1st Drive	本機に搭載されているHDDの型番を表示します。
Removable Drives	* 1st Drive	USB機器（光ディスクドライブ以外）を接続すると、型番を表示します。
CD/DVD Drives	* 1st Drive	外付け光ディスクドライブを接続すると、型番を表示します。

▶ Securityメニュー画面



「Security」メニュー画面では、パスワードやセキュリティーに関する設定を行います。

パスワードの設定方法は、 p.67 「パスワードを設定する」をご覧ください。

設定項目は、次のとおりです。

___は初期値

*は項目表示のみ

*Supervisor Password/User Password	Supervisor Password（管理者パスワード）とUser Password（ユーザーパスワード）が設定されているかどうかを表示します。 Installed : パスワードが設定されています。 Not Installed : パスワードが設定されていません。
Change Supervisor Password	管理者パスワードの設定や変更を行います。設定を行うと、「BIOS Setupユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求されます。  を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
User Access Level ※管理者パスワードを設定すると表示されます。	「User Password」（ユーザーパスワード）で「BIOS Setupユーティリティ」にアクセスするときのアクセス制限レベルを4段階で設定します。 No Access : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setupユーティリティ」を起動することができません。 View Only : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited : 「BIOS Setupユーティリティ」を閲覧できるほかに、ユーザーパスワードなど一部の設定項目を変更できます。 Full Access : ユーザーパスワード使用者に管理者と同一の権利を許可します。「BIOSセットアップユーティリティ」のすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。ただし、管理者パスワードの変更はできません。
Change User Password	ユーザーパスワードの設定や変更を行います。「BIOS Setupユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。  を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Password Check ※管理者パスワードを設定すると表示されます。	管理者パスワード、ユーザーパスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup : 「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワード入力を要求します。 Always : 「BIOS Setupユーティリティ」起動時、システム起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。
Hard Disk Protection ※管理者パスワードを設定すると設定可能になります。	HDDへのアクセス制限の有効/無効を設定します。アクセス制限を有効に設定したHDDは、ほかのコンピューターに接続しても認識されなくなります。 有効に設定すると、BIOS、システムへのアクセスが制限され、BIOS起動時とシステム起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。 Disabled : HDDへのアクセスを制限しません。 Enabled : HDDへのアクセスを制限します。

▶Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setupユーティリティを終了したり、BIOSの設定値を初期値に戻します。

設定項目は、次のとおりです。

Save Changes and Exit	変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes and Exit	変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。

▶BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Advanced メニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Onboard Device Settings	Onboard Audio	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Power メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容		
Suspend to RAM		Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
APM Configuration	Power On by PCI Devices	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
	Power On by RTC Alarm	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
	Restore on AC Power Loss	Power Off	Power On	Last State	Power Off	Power On	Last State

Boot メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
Boot Settings Configuration	Full Screen Logo	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Bootup Num-Lock	Off	On	Off	On
Boot Device Priority	1st Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	2nd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	3rd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	4th Boot Device	Disabled	()	Disabled	()

Security メニュー画面

項 目	購入時の設定		変更内容	
Supervisor password	Not Installed	Installed	Not Installed	Installed
User password	Not Installed	Installed	Not Installed	Installed
*User Access Level	No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access
*Password Check	Setup	Always	Setup	Always
*Hard Disk Protection	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

* 管理者パスワードを設定すると表示されます。

第3章 ソフトウェアの 再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

「再インストールする前に必ずお読みください」	78
「ソフトウェアの再インストールを行う」	79

再インストールする前に必ずお読みください

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。

HDDをフォーマットして、Windowsや本体ドライバーなどをインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。

再インストールは「リカバリ」とも言います。

▶再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

- なんらかの原因でWindowsが起動しなくなり、修復できない場合
- HDD領域の構成を変更したい場合

▶重要事項


再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外のBIOSへのアップデート禁止

当社製以外のBIOSへのアップデートは絶対にしないでください。当社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

セキュリティーソフトウェアの更新サービス

本機に添付のセキュリティーソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」で、90日経過後に更新サービスの延長キーを購入して更新サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新サービスの延長が無効になります。更新サービスの延長が無効になってしまった場合は、シマンテックストアまでお問い合わせください。

 『セキュリティーソフトウェアをご使用前に』（別冊）

Webフィルタリングソフトウェアの継続利用

本機に添付のWebフィルタリングソフトウェア「i-フィルター 30日版」で継続利用手続きを行っている場合、Windowsを再インストールすると利用期限が30日に設定されてしまいます。

この場合は、デジタルアーツ社のホームページから最新版を入手し、契約済みのシリアルIDを利用してインストールを行ってください。

詳細は、デジタルアーツ社にお問い合わせください。

<http://www.daj.jp/cs/support.htm>

ソフトウェアの再インストールを行う

ここでは、ソフトウェアの再インストール方法について記載しています。

▶必要な機器とメディア


再インストールには、次の機器とメディアが必要です。

- 外付け光ディスクドライブ
本機には光ディスクドライブが搭載されていません。使用するメディアに応じた外付け光ディスクドライブを本機に接続してください。
- Windows XPリカバリCD
Windows XPが収録されているCD-ROMです。
- ドライバー CD
本体ドライバーやソフトウェアが収録されているCD-ROMです。

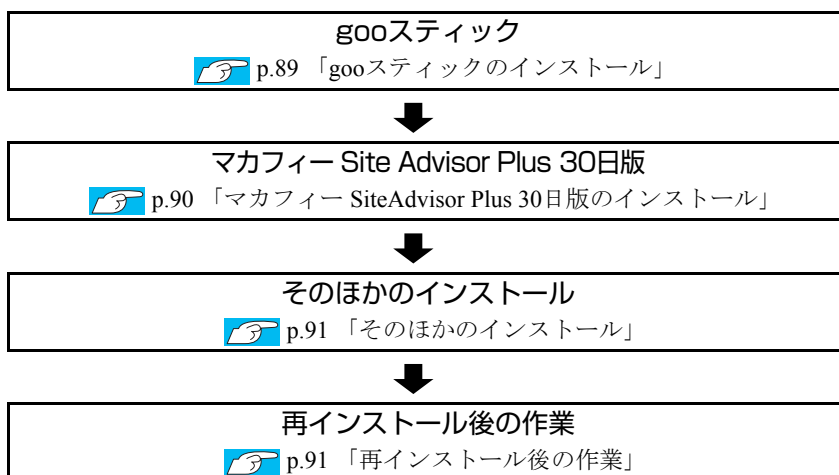
▶インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。

★印が付いたソフトウェアは必ずインストールを行ってください。

購入時のインストール状態は、 p.14 「添付されているソフトウェア」で確認してください。





▶インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点を確認してください。

コンピューターの管理者 (Administrator) 権限でログオン

インストール作業は、「コンピューターの管理者」権限（または同等の権限を持つユーザーアカウント）でログオンして行ってください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

HDDのファイルシステム

購入時のHDDは、NTFSファイルシステムを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしています。Windowsのインストールでパーティションをフォーマットする際は、必ずNTFSファイルシステムを使用してください。

ドライブ名

本章では、HDDをCドライブとして説明します。

各種設定やデータのバックアップ

再インストールを行うと、設定した事項が初期値に戻ってしまったり、データが消えてしまったりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。

 p.82 「バックアップを取る」

初期設定ツール


購入後のWindowsセットアップ時に使用した初期設定ツールは、Windowsを再インストールすると消去されます。

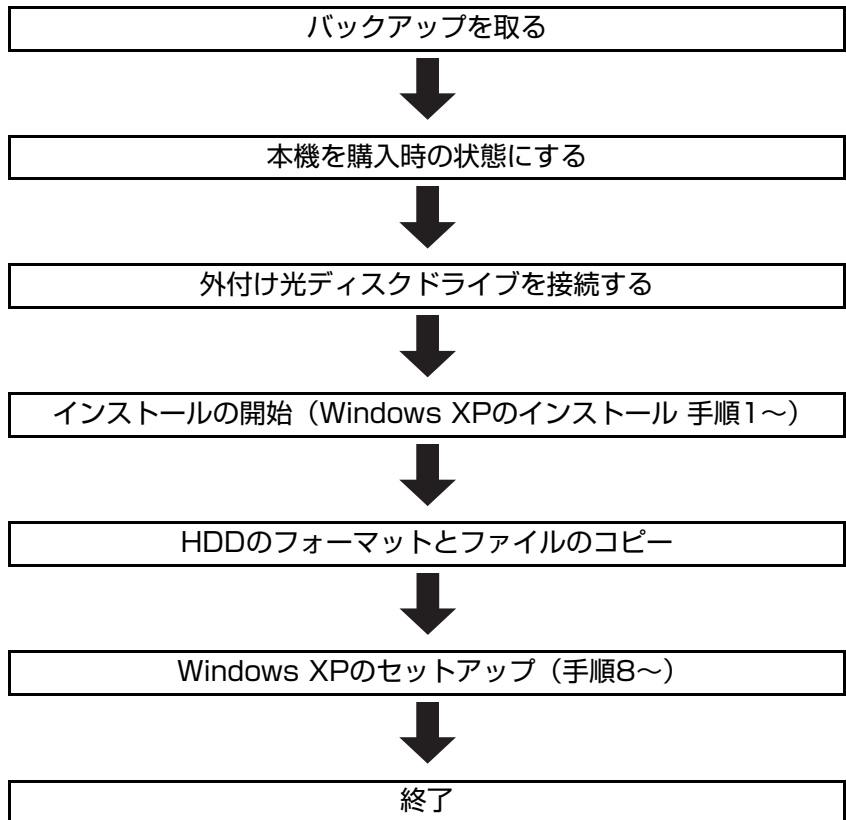
初期設定ツールでインストールした「セキュリティソフトウェア」などのソフトウェアは、以降で説明する手順に従ってインストールを行ってください。

▶Windows XPのインストール

インストールの流れ

Windows XPインストール作業の主な流れは次のとおりです。


インストール作業は、 p.82 「Windows XPをインストールする」以降の手順に従って行ってください。



▶Windows XPをインストールする

バックアップを取る

次の設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消去されます。必要に応じてバックアップを行ってください。

- **ネットワークの設定**
接続に関する設定を書き写しておいてください。
- **Internet Explorerの「お気に入り」、Outlook Expressの「アドレス帳」「メールデータ」**
 p.119 「データのバックアップ」
このほかのWeb閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。
- **重要なデータ**
ほかのメディアなどにコピーしておいてください。

コンピューターを購入時の状態にする






周辺機器が接続されていたり、BIOSの設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。本機を購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

外付け光ディスクドライブを接続する


インストールに使用するメディアに応じた外付け光ディスクドライブを、本機に接続してください。

BIOSで起動デバイスの順番を変更する

外付け光ディスクドライブを接続したら、「BIOS Setupユーティリティ」で起動デバイスの順番を変更します。

- 1 「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。**
 p.61 「BIOS Setupユーティリティの起動」
- 2 F5 を押して、BIOSの値を初期値に戻します。**
 p.65 「Load Setup Defaults (初期値に戻す)」
- 3 F10 を押して、BIOS Setup ユーティリティを一旦終了します。**
 p.65 「BIOS Setupユーティリティの終了」
- 4 再度、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。**
 p.61 「BIOS Setupユーティリティの起動」
- 5 「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」－「1st Boot Device」を「USB：(外付け光ディスクドライブの型番)」に設定します。**
 p.73 「Bootメニュー画面」






6 を押して、BIOS Setup ユーティリティを終了します。





 p.65 「BIOS Setupユーティリティの終了」

これで、起動デバイスの順番変更は完了です。

Windows XPのインストール


Windows XPのインストール方法は、次のとおりです。

- 1 Windowsが起動した状態で「Windows XPリカバリCD」を外付け光ディスクドライブにセットします。
「実行する操作の選択」画面が表示されたら、画面左下の [終了]をクリックし、画面を閉じてください。ここからはインストールを行いません。
- 2 [スタート] - [終了オプション] - [再起動] をクリックし、コンピューターを再起動します。
- 3 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。Windowsが起動してしまった場合は、手順2へ戻ります。
手順4の画面が表示されるまでしばらく時間がかかります。
- 4 「次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。・・・」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。
<領域変更を行わない場合（通常）>
Cドライブが選択されていることを確認し、 を押します。
<領域変更を行う場合>
 p.125 「Cドライブを分割・変更する」の手順に従ってください。
- 5 「…にWindows XPをインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択し、 を押します。
「現在のファイルシステムをそのまま使用（変更なし）」を選択すると、CドライブにWindowsが追加登録されてしまいます（Windowsが複数になります）ので注意してください。
- 6 「警告：このドライブをフォーマットすると・・・」と表示されたら、 を押します。
- 7 フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的にコンピューターが再起動します。
- 8 「ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するかしないかを選択し、[次へ] をクリックします。
「同意しません」を選択すると、Windows XPのインストールが中止されます。

- 9** 「ソフトウェアの個人用設定」と表示されたら、「名前」と「組織名」を入力し、[次へ] をクリックします。
「名前」は必ず入力してください。
- 10** 「コンピュータ名は何ですか?」と表示されたら、必要な項目を入力し、[次へ] をクリックします。
「このコンピュータの名前」には、すでに任意のコンピューター名が入力されています。
<ネットワークに接続する場合>
ネットワーク上にあるほかのコンピューター名と重複しないように、コンピューター名を入力します。
<ネットワークに接続しない場合>
セットアップ時にコンピューター名を変更する必要はありません。
- 11** 「日付と時刻の設定」と表示されたら、表示内容を確認し、[次へ] をクリックします。
本機設置場所の日付と時刻の設定を行います。
- 12** 再起動後に「ディスプレイの設定」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
- 13** 「モニタの設定」画面が表示されたら、[OK] をクリックします。
- 14** 「Microsoft Windowsへようこそ」と表示されたら、画面右下の  (次へ) をクリックします。
- 15** 「コンピュータを保護してください」と表示されたら、自動更新を有効にするかどうかを選択し、画面右下の  (次へ) をクリックします。
インターネットに接続している環境の場合は、自動更新を有効にすることをおすすめします。
- 16** 「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、ユーザー名を入力し、画面右下の  (次へ) をクリックします。
ユーザー名を少なくとも1つ入力してください。
- 17** 「設定が完了しました」と表示されたら、画面右下の  (完了) をクリックします。
- 18** Windows XPのデスクトップ画面が表示されたら、「Windows XPリカバリCD」を取り出します。
これでWindows XPのインストールは完了です。

19 手順4でHDD領域（Cドライブ）を変更した場合は、「未使用の領域」に領域（パーティション）の作成を行います。

領域（パーティション）の作成は、ドライバーやソフトウェアのインストールが完了してから行っても構いません。

 p.128 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

▶本体ドライバーのインストール

本機のドライバー類を、一括してインストールします。
インストールされるドライバー類は次のとおりです。

- ビデオドライバー
- サウンドドライバー
- インフォメーションメニュー
- システム診断ツール
- ネットワークドライバー
- Windows Media Player 11
- Microsoft .NET Framework
- Java 2 Runtime Environment

インストール

インストールの手順は次のとおりです。

- 1 「ドライバー CD」を外付け光ディスクドライブにセットします。**
正しくセットされると、自動的に「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、[スタート] - 「マイコンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から [インストール] をクリックします。**
- 3 「インストール確認」画面が表示されます。内容をよくお読みになり [OK] をクリックします。**
各ドライバーが自動的にインストールされます。インストールには、十数分かかります。
- 4 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK] をクリックします。**
- 5 「インストール処理」画面が表示されたら、ドライバーのインストール状態を確認して [PC再起動] をクリックします。**
Windowsが再起動したら、本体ドライバーのインストールは完了です。

▶ Adobe Readerのインストール

「Adobe Reader」は、PDF形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。

インストール

Adobe Readerのインストール手順は、次のとおりです。

- 1 「ドライバー CD」を外付け光ディスクドライブにセットします。**
正しくセットされると、自動的に「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、[スタート] - 「マイコンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から「Adobe Reader」をクリックします。**
- 3 「インストール先のフォルダ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**
- 4 「プログラムをインストールする準備ができました」と表示されたら、[インストール] をクリックします。**
インストールにはしばらく時間がかかります。
- 5 「セットアップ完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。**
続いてAdobe Readerのセットアップを行います。


セットアップ

インストールが完了したら、続いてセットアップを行います。Adobe Readerのセットアップ手順は次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「Adobe Reader」アイコンをダブルクリックします。**
- 2 「Adobe Reader使用許諾契約書」画面が表示されたら、「使用許諾契約書」に同意するかしないかを選択します。**
同意する場合は、[同意する] をクリックします。[同意しない] を選択すると、Adobe Readerは使用できません。
これで、Adobe Readerのセットアップは完了です。

▶セキュリティソフトウェアのインストール

本機に添付のセキュリティソフトウェア「Norton Internet Security 90日版」をインストールします。当社ユーザーサポートページからダウンロードした『セキュリティソフトウェアをご使用前に』（PDF）をご覧ください。

 p.121 「電子マニュアルのダウンロード」

市販のセキュリティソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶Webフィルタリングソフトウェアのインストール

本機に添付の「i-フィルター 30日版」をインストールします。i-フィルター 30日版は、有害サイトをブロックするためのWebフィルタリングソフトウェアです。

市販のWebフィルタリングソフトウェアなどをインストールする場合は、ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

i-フィルター 30日版のインストール

i-フィルター 30日版のインストール方法は、次のとおりです。

- 1 「ドライバー CD」を外付け光ディスクドライブにセットします。**
正しくセットされると、自動的に「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、[スタート] - 「マイコンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から「i-フィルター 30日版」をクリックします。**
- 3 「i-フィルター…インストール」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**
- 4 「使用許諾契約」と表示されたら、「使用許諾契約の全条項に同意します」を選択して、[次へ] をクリックします。**
- 5 「セットアップタイプ」と表示されたら、[次へ] をクリックします。**
- 6 「インストール準備の完了」と表示されたら、[インストール] をクリックします。**
デスクトップ上に「i-フィルター」アイコンが表示されたら、i-フィルター 30日版のインストールは完了です。
続いて、i-フィルター 30日版のユーザー登録を行います。

i-フィルター 30日版のユーザー登録

i-フィルター 30日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。
ユーザー登録はインターネット接続後に行います。
ユーザー登録の方法は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「i-フィルター」アイコンをダブルクリックします。
Windowsを再起動した場合は、「i-フィルター・・・」画面が自動的に表示されます。
- 2** 「i-フィルター・・・」画面が表示されたら、使用許諾契約書の内容をよくお読みになり、「[i-フィルター] を使ってみる」をクリックします。
- 3** 「[i-フィルター] の開始」と表示されたら、次の作業を行います。
<初回ユーザー登録時>
 - (1) [次へ] をクリックします。
 - (2) 「無料お試し版ダウンロード お申し込み」と表示されたら、「お申し込みの入力」で「E-Mailアドレス」と「お名前」、「管理パスワードの設定」で「管理パスワード」と「管理パスワード [確認入力]」を入力します。
「管理パスワード」は設定画面を開くときに必要になりますので、忘れないようにしてください。
 - (3) 「情報メール配信設定」で情報メールの配信を希望するかしないかを選択します。
 - (4) [同意して確認画面へ] をクリックします。
 - (5) 「お申し込み内容の確認」と表示されたら、内容を確認し、[登録する] をクリックします。
 - (6) 「お客様情報登録完了」と表示されたら、「登録内容」に記載されている「シリアルID」と「利用期限」を確認しておきます。
同時に、登録したE-Mailアドレスにも「シリアルID」と「利用期限」が記載された登録完了メールが配信されます。
一度登録を行うと、同じE-Mailアドレスでの再登録はできません。i-フィルター 30日版の再インストール後など、2回目以降のユーザー登録では、登録完了メールに記載されている「シリアルID」を使用します。
「シリアルID」は必ず書き写すなどして控えておいてください。
 - (7) [完了] をクリックします。<2回目以降のユーザー登録時>
 - (1) [シリアルIDを持っているお客さま] をクリックします。
 - (2) 「シリアルIDのご確認」で、初回セットアップ時に配信された「シリアルID」を入力します。
 - (3) 「管理パスワードの設定」で「管理パスワード」と「管理パスワード [確認入力]」を入力します。
「管理パスワード」は設定画面を開くときに必要になりますので、忘れないようにしてください。
 - (4) [次へ] をクリックします。
 - (5) 「シリアルIDを確認しました」と表示されたら、[完了] をクリックします。

これで、i-フィルター 30日版のユーザー登録は完了です。

▶JWord Pluginのインストール

「JWord Plugin」は、Internet Explorerのアドレスバーから、日本語でインターネットを検索できるソフトウェアです。

JWord Pluginのインストール手順は次のとおりです。

- 1 「ドライバー CD」を外付け光ディスクドライブにセットします。**
正しくセットされると、自動的に「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、[スタート] - 「マイコンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から「JWord Plugin」をクリックします。**
- 3 「JWordプラグイン…へようこそ」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。**

▶gooスティックのインストール

「gooスティック」は、Internet Explorerのツールバーに、検索サービス「goo」の検索ボックスを追加するソフトウェアです。

gooスティックのインストール手順は次のとおりです。

- 1 「ドライバー CD」を外付け光ディスクドライブにセットします。**
正しくセットされると、自動的に「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、[スタート] - 「マイコンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から「gooスティック」をクリックします。**
- 3 「インストールが完了しました。」と表示されたら、[OK]をクリックします。**
これで、gooスティックのインストールは完了です。

▶マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール

「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」は、Webサイトの安全性を表示し、危険なサイトへのアクセスを防ぐWebセーフティーツールです。

インストール

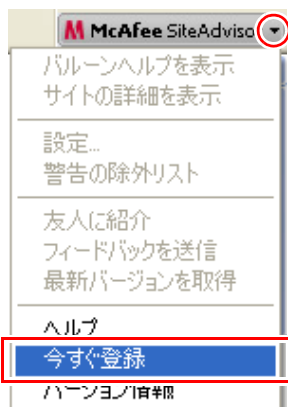
マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版のインストール手順は次のとおりです。

- 1 「ドライバー CD」を外付け光ディスクドライブにセットします。**
正しくセットされると、自動的に「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、[スタート] - 「マイコンピュータ」 - 「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から「マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版」をクリックします。**
- 3 「McAfee SecurityCenter」画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。**
インストールが完了したら、続いてユーザー登録を行います。

ユーザー登録

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。ユーザー登録の方法は、次のとおりです。

- 1 Internet Explorerを起動します。**
- 2 Internet Explorerのツールバーに表示される [McAfee SiteAdvisor] の▼をクリックして、表示された一覧から「今すぐ登録」をクリックします。**



- 3 表示された画面に従ってユーザー登録を行います。**
ユーザー登録が完了すると、マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版が使用可能になります。

▶そのほかのインストール

必要に応じて次のインストールを行ってください。

各種ドライバーのインストール

お使いになる機器によっては、ドライバーやユーティリティ、ソフトウェアなどのインストールが必要な場合があります。インストールは、機器類に添付のメディアを使用します。詳しくは、お使いになる機器類に添付のマニュアルをご覧ください。



インストールが必要なドライバーの例

お使いになる機器によって、次のようなドライバーやユーティリティが必要になります。

- USB対応機器を使用する場合：USB機器に添付のドライバー
- プリンターを使用する場合：プリンターに添付のドライバー

そのほかのソフトウェアのインストール

「Office」など、そのほかに使用するソフトウェアがある場合は、インストールします。インストール方法はソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

▶再インストール後の作業

再インストールが完了したら、必要に応じて次の作業を行ってください。

ネットワークの設定

ネットワークを使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。



p.38 「ネットワーク機能を使う」

バックアップしたデータの復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータを復元します。



p.119 「データのバックアップ」

- Internet Explorer、Outlook Expressの設定の復元
- 重要なデータ
バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

Windows Update

再インストールを行うと、今までに行った「Windows Update」のプログラムがインストールされていない状態に戻ります。

再インストール後にはじめてインターネットに接続する際は、必ず手動でWindows Updateを行ってください。



p.47 「Windows Update」

第4章 こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。


「トラブルが発生したら」	94
「困ったときに」	95
「システム診断ツールを使う」	112
「トラブル時に役立つ機能」	114
「警告メッセージが表示されたら」	116

トラブルが発生したら

本機をご使用時にトラブルが発生した場合は、次の場所から対処方法を確認してください。

● 困ったときに

トラブルが発生した場合の確認事項と対処方法を記載しています。

 p.95 「困ったときに」

● とらぶる解決ナビ

当社ユーザーサポートページの「サポート情報検索」から、技術的なトラブルの解決方法をピックアップして収録しています。



「インフォメーションメニュー」を開き、「とらぶる解決ナビ」をクリックします。



トラブルが起きた場合の対処の流れを確認します。

起こったトラブルに関する項目をクリックします。
トラブルの詳細が表示されたら、詳細項目をクリックし、対処方法を確認します。

参考

サポート・サービスのご案内

『サポート・サービスのご案内』（別冊）には、当社のサポートやサービスの内容が詳しく記載されています。

困ったときや万一の場合に備えてご覧ください。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。対処方法が見つからない場合は、「インフォメーションメニュー」の「とらぶる解決ナビ」や「サポート情報検索」もあわせてご覧ください。



不具合が解消しない場合は

対処を行っても不具合が解消しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

不具合一覧

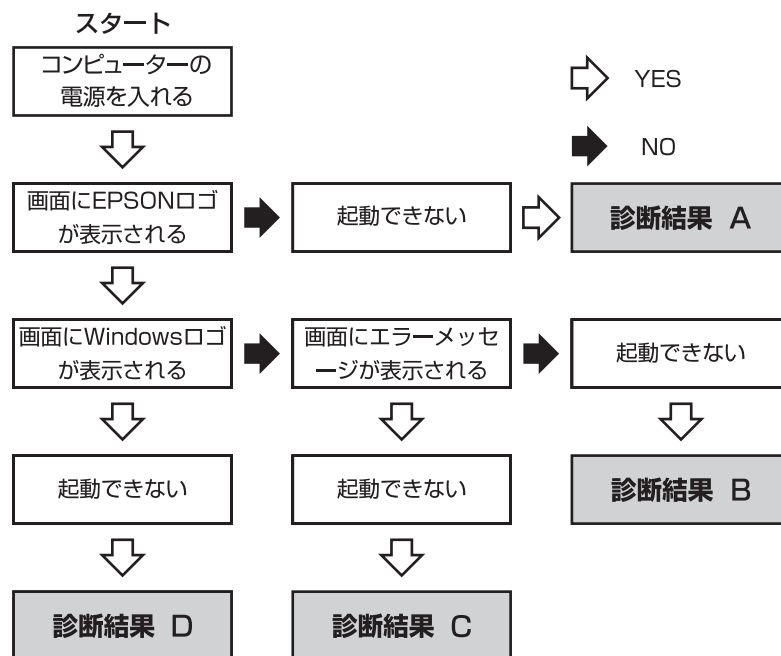
コンピューター本体（起動時）.....	p.96
● 起動.....	p.96
● そのほか.....	p.102
コンピューター本体.....	p.103
● 省電力機能.....	p.103
● そのほか.....	p.104
メモリー.....	p.104
● メモリー.....	p.104
記憶装置.....	p.105
● HDD.....	p.105
入力装置.....	p.105
● キーボード.....	p.105
● マウス.....	p.106
表示装置.....	p.107
● ディスプレイ.....	p.107
サウンド.....	p.108
● スピーカー.....	p.108
ソフトウェア.....	p.109
● ソフトウェア.....	p.109
● インストール.....	p.111
ネットワーク、インターネット.....	p.111

▶コンピューター本体の不具合（起動時）

コンピューターが起動できないときの不具合に対する対処方法を説明します。

起動時の不具合

シャットダウン状態からコンピューターが起動できない場合は、次の診断を行い、各診断結果に応じた対処を行ってみてください。



診断結果 A

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) コンピューター本体の電源を入れなおす

電源を入れなおす場合は、20秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

(2) ディスプレイの電源ランプを確認する

ディスプレイの取扱説明書をご覧になり、ディスプレイの電源ランプが通常動作時の状態になっているかどうか確認してください。

(3) ディスプレイケーブルを接続しなおす

コンピューター本体とディスプレイの接続に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイケーブルを接続しなおし、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決するかどうか確認してください。

(4) ディスプレイの電源コードを接続しなおす

ディスプレイの電源コードの接続に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイの電源コードを接続しなおし、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(5) コンピューター本体への電源供給を確認する

コンピューターへの電源供給に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピューターとACアダプター、電源コードを接続しなおし、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(6) 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(7) 電源保護回路を解除する

過電流によってコンピューターが不安定になっている可能性があります。周辺機器や増設機器類（キーボード、マウス、ディスプレイを含む）を外して電源コードを抜いたあと、1分程度放置し、問題が解決されるかどうか確認してください。

診断結果 B

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

(2) セーフモードで起動し、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。



p.114 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、「システムの復元」機能を使用して以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。システムの復元を行ってみてください。



p.114 「システムの復元」

(3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1. シャットダウン状態からコンピューターの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され、すぐに **F5** を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。
3. 「Windows拡張オプションメニュー」と表示されたら、**↑** または **↓** を押して「前回正常起動時の構成」を選択し、**↵** を押します。
4. 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、起動するOSを選択して **↵** を押します。


(4) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。


 p.65 「Load Setup Defaults（初期値に戻す）」

(5) Windowsを再インストールする

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.77 「ソフトウェアの再インストール」

診断結果 C

まず、 p.116 「警告メッセージが表示されたら」をご覧ください。メッセージに応じた対処を行ってください。あてはまるメッセージがない場合は、下記をご覧ください。対処を行ってください。

- 「S.M.A.R.T Failure Predicted on HDD / WARNING: Immediately back-up your data and replace your HDD」というメッセージが表示された場合

(1) カスタマーサービスセンターへ連絡する

HDDに問題がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。カスタマーサービスセンターへご連絡ください。

● 「Hardware Monitor found an error, Enter Power setup menu for details」というメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) コンピューター本体の電源を入れなおす

コンピューターの電源を切ってから、電源コードを抜き、コンピューター内部が冷えるまで10分以上待ってから電源を入れてみてください。

(2) 壁のコンセントに直接接続する

電源タップなどにコンピューターの電源コードを接続している場合は、電源タップなどを使用せず、壁にあるコンセントに直接コンピューターの電源コードを接続して、電源を入れてみてください。

(3) 消費電力の大きい機器を停止する

大画面テレビやエアコンなど、消費電力の大きい機器を使用している場合、それらの機器の電源を切ってから、コンピューターの電源を入れてみてください。

● 「DISK BOOT FAILURE」、「Invalid system disk」、「Missing Operating System」、「Operating System Not Found」などのメッセージが表示された場合

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) しばらく放置する

急激な温度変化があった場合は、HDDの表面が結露している可能性があります。乾くまで、しばらく放置しておいてから、再度電源を入れてみてください。

(2) HDDの認識と接続を確認する

BIOSでHDDを認識できていない可能性があります。次の手順でBIOSを確認してください。

1. BIOS Setupユーティリティを起動します。



p.61 「BIOS Setupユーティリティの起動」

2. 「Main」メニュー画面で「IDE Configuration」－「1st Drive」の表示を確認します。

「Hard Disk」と表示される場合、HDDは正常な状態です。続いて、下記(3) (4)の作業を行ってください。

「Not Detected」、「None」などと表示される場合は、HDDが正常に認識されていません。『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。「カスタマーサービスセンター」へご連絡ください。


(3) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

 p.65 「Load Setup Defaults (初期値に戻す)」

(4) Windowsを再インストールする

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.77 「ソフトウェアの再インストール」

● **そのほかのメッセージが表示された場合**

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。


(2) BIOSの設定を初期値に戻す

BIOSの不整合が原因で問題が発生している可能性があります。BIOSの設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前にBIOSの設定をメモしておいてください。

 p.65 「Load Setup Defaults (初期値に戻す)」

(3) Windowsを再インストールする

HDD内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windowsの再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.77 「ソフトウェアの再インストール」


診断結果 D

次の対処を順番に行ってみてください。

(1) 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどお客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

- (2) セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

 p.114 「セーフモードでの起動」


セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼働中、常に稼働しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。

常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

1. [スタート] - 「ファイル名を指定して実行」を選択します。
2. 「ファイル名を指定して実行」画面が表示されたら、「名前」に「msconfig」と入力して、[OK] をクリックします。
3. 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目（常駐ソフト）のチェックを外し、[OK] をクリックします。
4. 「再起動する必要があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。
5. Windows起動時に、「開始方法を変更しました」というメッセージが表示されたら、「このメッセージを表示しない」にチェックを入れて、[OK] をクリックします。

常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

常駐ソフトが原因ではなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。

 p.114 「システムの復元」


- (3) 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

1. シャットダウン状態からコンピューターの電源を入れます。
2. 「EPSON」と表示され、すぐに **[F5]** を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。
3. 「Windows拡張オプションメニュー」と表示されたら、**[↑]** または **[↓]** を押して「前回正常起動時の構成」を選択し、**[↵]** を押します。
4. 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、起動するOSを選択して **[↵]** を押します。

- (4) Windowsを再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが壊れている可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.77 「ソフトウェアの再インストール」




起動時の不具合（そのほか）

現象

起動時に次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

Enter Password:

確認と対処

- 「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。
 p.67 「パスワードを設定する」
- パスワードを正しく入力しているか確認してください。 の状態により数値が正しく入力されていない場合があります。
 p.26 「キーロック表示ランプ」
- パスワードを忘れてしまった場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

現象

起動時にWindowsを選択する画面が表示される（Windowsが2つになってしまっている）。

確認と対処

- Windowsの再インストールの際に手順を間違ったと考えられます。再度、手順どおりにWindowsの再インストールを行ってください。ポイントとなる手順は、次のとおりです。
 - p.83 「Windows XPのインストール」の手順4とp.125 「Cドライブを分割・変更する」の手順1では必ずCドライブを選択する（Cドライブ以外にWindowsが入っている場合は、そのドライブをフォーマットする）。
 - p.83 「Windows XPのインストール」の手順5とp.125 「Cドライブを分割・変更する」の手順7では必ず「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択する。

▶コンピューター本体の不具合




コンピューター本体の不具合に関する対処方法を説明します。

省電力機能に関する不具合

現象

正しく省電力状態に移行できない。または省電力状態から復帰できない。

確認と対処

- 使用しているソフトウェアや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。ソフトウェアの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。
- 相性の良くない周辺機器などを使用している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」の設定値を次のように変更してください。設定を変更した場合の電力消費は、通常より若干抑えられる程度になります。
「Power」メニュー画面－「Suspend to RAM」: 「Disabled」(無効)
 p.62 「BIOS Setupユーティリティの操作」
 p.55 「省電力状態の種類」
- スタンバイを実行しているときや、休止状態のときは、マウスやキーボードの操作では、省電力状態から復帰できない場合があります。この場合は、電源スイッチを押して本機を復帰させてください。
 p.58 「省電力状態から復帰する」
- 省電力状態から復帰できない場合は、**Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して本機を再起動してください。ただし、省電力状態移行前に作成した未保存のデータはすべて消失します。
- 周辺機器の状態が変わると、省電力状態から復帰できないことがあります。周辺機器を省電力状態に入る前と同じ状態にしてみてください。

そのほかの不具合

現象

ハングアップしてしまい何も反応しない。

確認と対処

- 応答のないソフトウェアをタスクマネージャで終了させます。
ソフトウェアを終了させることができない場合には、電源スイッチを5秒以上押し続けて電源を切ってください。

 p.19 「ハングアップしたときは」

現象

「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処

- 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧ください、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

▶メモリーの不具合

メモリーの不具合に対する対処方法を説明します。

現象

メモリー容量がWindows上で少なく表示される。

確認と対処

- 本機は、メインメモリーの一部をビデオメモリーとして使用します。そのため、Windows上ではメインメモリーからビデオメモリー（約128MB）を引いた容量が表示されます。

▶記憶装置の不具合

記憶装置の不具合に対する対処方法を説明します。

HDDの不具合

現象

HDD容量がWindows上で、少なく表示される。

確認と対処

- 本機に搭載されているHDD容量をWindows上で確認すると、少なく表示されます。
これは、Windows上では容量を計算や表示する場合に「2進法」(0と1の2つの数字を用いる表記法)を使用しているのに対して、マニュアルではHDDなどの仕様を表記する際に用いられている「10進法」(0~9の数字を用いる表記法)を使用していることによる違いです。
2進法で表記した1KB(キロバイト)は「1024Byte」になるのに対し、10進法で表記した場合には「1000Byte」となります。そのため、WindowsなどのOS上で表示されるHDD容量は、マニュアルに記載されている容量よりも少なく表示されます。

現象

HDDからWindowsが起動しない。

確認と対処

- BIOS Setupユーティリティの「Boot」メニュー画面で起動時のHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。



p.61 「BIOS Setupユーティリティの操作」

▶入力装置の不具合



入力装置の不具合に対する対処方法を説明します。

キーボードの不具合

現象

数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処

- 数値キーは  の状態により機能が変わります。 を押して、オンの状態にします。





p.26 「キーロック表示ランプ」

現象

どのキーを押しても応答がない。


確認と対処

- キーボードが正しく接続されているか確認します。
 『スタートアップガイド』
- マウスを操作してみてください。マウスで操作できる場合もあります。
- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。しばらく待ってみてください。
- ソフトウェアがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、タスクマネージャでソフトウェアを終了してください。
 p.19 「ハングアップしたときは」

現象

キーボードにある文字や記号が入力できない。

確認と対処



- 直接入力モードで日本語を入力することはできません。日本語入力モードに切り替えてください。
 p.24 「キーボードを使う」

マウスの不具合

現象

マウスを動かしても、マウスポインターが動かない。

確認と対処

- マウスが正しく接続されているか確認します。
 『スタートアップガイド』
- キーボードを操作してみてください。キーボードで操作できる場合もあります。
- ソフトウェアが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。しばらく待ってみてください。
- ソフトウェアがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、タスクマネージャでソフトウェアを終了してください。
 p.19 「ハングアップしたときは」
- オプティカルマウスの場合、表面が反射する場所やざらざらした場所、複雑なイラスト入りのマウスパッドの上で使用すると、マウスの動きがコンピューターに伝わりません。

▶表示装置の不具合


表示装置の不具合に対する対処方法を説明します。

ディスプレイの不具合

現象

起動時にディスプレイに何も表示されない。


確認と対処

- ディスプレイの電源ランプが点灯しているか確認してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- 本機背面の VGA コネクタにディスプレイのケーブルが接続されているか確認します。
 『スタートアップガイド』
- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。調整方法は、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。
- コンピューターの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。
- 警告音（ビープ音）が鳴った場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見された可能性があります。音の種類、音の長さなどを確認した上で、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。


現象

使用中に何も表示されなくなった。

確認と対処

- 省電力状態になっている可能性があります。キーボードやマウスを操作してみてください。それでも表示されない場合は、電源スイッチを押してみてください。
 p.58 「省電力状態から復帰する」
- ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。調整方法は、ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

- ディスプレイの仕様を確認して、該当するコネクタにディスプレイのケーブルが正しく接続されているか確認してください。本機で使用できるディスプレイの接続ケーブルは次をご覧ください。

 『スタートアップガイド』

- ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売元にご確認ください。

現象

画面がちらつく、文字がにじむ。

確認と対処

- リフレッシュレートを変更してみてください。


 p.33 「リフレッシュレートの設定」

現象

画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示されなくなった。

確認と対処

- ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。
- 使用中のディスプレイでは表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで起動して、解像度を変更してみてください。

 p.114 「セーフモードでの起動」

▶ サウンドの不具合

サウンドの不具合に対する対処方法を説明します。

スピーカーの不具合

現象

音が鳴らない。

確認と対処

- 本機にスピーカーは内蔵されていません。音声を出力したい場合は、アンプ内蔵スピーカーを本機背面のライン出力コネクタに接続してください。
- ボリュームコントロールがミュートまたはレベル0になっている可能性があります。ボリュームを調節してください。

 p.35 「音量の調節」

▶ソフトウェアの不具合

ソフトウェアの不具合に対する対処方法を説明します。

ソフトウェアの不具合

現象

ソフトウェアの使用中に突然停止（ハングアップ）した。

確認と対処

- 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、Windowsの再起動、停止（ハングアップ）などが含まれます。ソフトウェアを再度実行してみてください。
- ケーブルの接続不良や、キーボード内のゴミやホコリ、電源の出力不安定、または、そのほかの部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。
- HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、Windowsがハングアップする場合があります。
- 応答のないソフトウェアを強制終了してから本機を再起動してください。



p.19 「ハングアップしたときは」

現象

ソフトウェアやプログラムが停止し、「データ実行防止」画面が表示される。

確認と対処

- セキュリティソフトウェアで、ウイルスの検索・駆除を行ってください。それでも問題が解決しない場合は、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでお問い合わせください。

現象

ソフトウェアが起動しない。

確認と対処

- ソフトウェアの起動に必要なとされるシステムリソース（メモリー容量やHDDの使用可能な容量など）が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、ソフトウェアのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度ソフトウェアを起動してみてください。

- ソフトウェアを正しい方法でインストールしたか、ソフトウェアの起動手順を正しく実行しているか確認してください。
- 実行しようとしているディレクトリーが正しいか確認してください。FD や CD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブまたはディレクトリーの指定が正しく行われているか確認してください。
- ソフトウェアの使用許諾を受けていない場合（違法コピーなど）、ソフトウェアが動作しないことがあります。ソフトウェアの正式版を使用してください。
- ソフトウェアの使用方法をもう一度確認してください。それでもソフトウェアの不具合が解決できないときは、ソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

現象

Internet Explorerを使用時、情報バーに警告が表示される。

確認と対処

- Internet Explorerは、購入時、セキュリティー強化のために、意図しないプログラムや実行ファイルのダウンロードについて警告するよう設定されています。Internet Explorer使用時に情報バーに警告が表示されたら、[OK] をクリックして画面を閉じ、情報バーをクリックして、表示された項目から適切な対処を選択してください。

現象

Outlook ExpressでHTMLメールの画像が表示されない、または添付ファイルが開けない。

確認と対処


- メール添付のファイルや送信元の不明なメールによるウイルスの侵入から、コンピューターを保護するための設定が購入時にされています。HTMLメールの画像を見る場合は、送信元を確認して、件名の下にある情報バーをクリックします。添付ファイルについての設定は、次の場所で確認できます。Outlook Expressの [ツール] - 「オプション」 - 「セキュリティ」 タブ - 「ウイルスの可能性のある添付ファイルを保存したり開いたりしない」

現象

インストールしたネットワークアプリケーションが動作しない。

確認と対処

- ファイアウォールが有効に設定されていると、ネットワークアプリケーションが正常に動作しない場合があります。

 p.50 「ファイアウォール」

詳細はソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

インストール時の不具合

現象

Windowsの再インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

- 本書のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。
- 本書の手順は、HDDのフォーマット後にインストールを行うことを前提に記載しています。それ以外の場合は、手順が異なることがあります。不明な点は『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。
- インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

▶ネットワーク、インターネットの不具合

ネットワーク、インターネットの不具合と対処方法は、「インフォメーションメニュー」－「とらぶる解決ナビ」をご覧ください。

システム診断ツールを使う

システム診断ツールを使うと、本機の調子が悪いときに、どのハードウェアが不具合の原因かを診断することができます。

▶システム診断ツールの種類

システム診断ツールには、次の2つの種類があります。

● Windows上で起動するシステム診断ツール

Windows上でシステム診断を行うことができます。Windowsを起動できる場合に使用します。

購入時は、本機にあらかじめインストールされています。

● CDから起動するシステム診断ツール

Windowsが起動できない場合に、外付け光ディスクドライブを接続し、「ドライブ CD」からツールを起動してシステム診断を行います。

本機の廃棄時にHDD内のデータを消去することもできます。



p.132 「コンピューターを廃棄するときは」

▶システム診断を実行する

本機の調子が悪いときに、システム診断をして原因を確認します。Windowsを起動できる場合とできない場合で、システム診断の実行方法は異なります。

Windowsを起動できる場合

Windows上でシステム診断を行います。

実行方法は、次のとおりです。

1 デスクトップ上の「システム診断ツール」アイコンをダブルクリックします。



<システム診断ツールアイコン>

2 「システム診断ツール」画面が表示されたら、診断したい項目名をクリックします。

該当項目の診断が開始します。

「診断項目を選択する」を選択した場合は、診断項目を選ぶことができます。実行方法の詳細は、システム診断ツールのヘルプをご覧ください。

3 診断が終了したら、診断結果を確認します。

「異常が検出されました」の画面が表示された場合は、該当項目に不具合がある可能性があります。画面の内容を確認してください。

問題が解決されない場合は、ヘルプまたは『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください、テクニカルセンターまでご連絡ください。

Windowsを起動できない場合

「ドライバー CD」からシステム診断ツールを起動します。
実行方法は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、ドライバー CDを外付け光ディスクドライブにセットします。
- 2** **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押します。
コンピューターが再起動します。
- 3** 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading…… Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断を開始します。
- 4** 診断が終了したら、診断結果を確認します。
「F」が表示された場合は、表示された項目に不具合がある可能性があります。『サポート・サービスのご案内』をご覧になり、テクニカルセンターまでご連絡ください。
- 5** 光ディスクドライブからドライバー CDを取り出し、電源を切ります。
これでシステム診断は完了です。

トラブル時に役立つ機能

ここでは、トラブルが発生した場合に役立つWindowsの機能について説明します。

▶セーフモードでの起動

コンピューターが起動できない場合や、ディスプレイで表示できない解像度を選択して表示ができなくなってしまった場合などには、セーフモードで起動してみてください。

セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1 本機の電源を切り、20秒程放置してから、電源を入れます。
- 2 EPSONと表示されたら、すぐに **[F5]** を押し、「トン、トン、トン…」と連続的に押します。
- 3 「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、**[↵]** を押します。
- 4 「オペレーティングシステムの選択」と表示されたら、起動するOSを選択して **[↵]** を押します。

セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

▶システムの復元

本機の動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行ってWindowsを以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。

復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に、自動的に作成されますが、手動で作成しておくこともできます。

システムを復元する

システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。システムの復元を行う前に、HDDのデータをほかのメディアにバックアップしておくことをおすすめします。

- 1 [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「システムの復元」を選択します。
- 2 「システムの復元」が表示されたら、「コンピュータを以前の状態に復元する」を選択し、[次へ] をクリックします。

- 3** 「復元ポイントの選択」と表示されたら、復元ポイントを選択します。
復元ポイントのある日が、カレンダーに太字で表示されます。まず日付を選択し、次に画面右側の復元ポイントの一覧から復元ポイントを選択して、[次へ] をクリックします。
- 4** 「復元ポイントの選択の確認」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
Windowsが再起動します。
- 5** 再起動後、「復元は完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。
これでシステムの復元は完了です。

復元ポイントを手動で作成する

復元ポイントを手動で作成する方法は次のとおりです。

- 1** [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「システムの復元」を選択します。
- 2** 「システムの復元」画面が表示されたら、「復元ポイントの作成」を選択し、[次へ] をクリックします。
- 3** 「復元ポイントの作成」と表示されたら、「復元ポイントの説明」に説明を入力し、[作成] をクリックします。
- 4** 「新しい復元ポイント」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。
これで復元ポイントの作成は完了です。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。

処置を行ってもなおらない場合には、『サポート・サービスのご案内』（別冊）をご覧ください。テクニカルセンターまでご連絡ください。

メッセージ	説明と対処方法
Reboot and Select proper Boot device or Insert Boot Media in selected Boot device and press a key	<ul style="list-style-type: none">● ブートデバイスにシステムがない場合は、「BIOS Setupユーティリティー」－「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で、システムの入ったデバイスを設定してください。● ブートデバイスにメディアが挿入されていない場合は、システムの入ったメディアをブートデバイスに挿入してください。
CMOS Battery Low	バックアップ用電池の容量が不足して、CMOS RAMの内容を保持できません。テクニカルセンターまでご連絡ください。
CMOS Checksum Bad	CMOSの設定が正しく行われていません。BIOS Setupユーティリティーを起動して、「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択してください。
CMOS Date/Time Not Set	日付と時間の設定が正しく行われていません。BIOS Setupユーティリティーを起動し、日付と時刻の設定をなおしてから「Exit」メニュー画面－「Save Changes and Exit」を選択してください。

付録

お手入れ方法やHDD領域の作成方法、仕様などについて説明します。

「お手入れ」	118
「データのバックアップ」	119
「電子マニュアルのダウンロード」	121
「HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成」	122
「リチウム電池の交換」	131
「コンピューターを廃棄するときは」	132
「機能仕様一覧」	134

お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。



制限

お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

▶本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

外装の汚れ

コンピューター本体の外装の汚れは、柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。

キーボードやマウスの外装の汚れも同様です。



制限

- 本機をたいたり、硬いものでこすったりしないでください。変形やキズ、破損の原因となります。
- ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

データのバックアップ

Windowsを再インストールすると、Windowsがインストールされるドライブ（Cドライブ）に保存しているデータはすべて消去されます。Windowsを再インストールする前に、必要なデータのバックアップを取っておいてください。

▶バックアップ方法

Cドライブ内の「マイドキュメント」やInternet Explorerの「お気に入り」など、HDD内のデータをバックアップする方法やバックアップしたデータを復元する方法は、本機の「インフォメーションメニュー」にある「PCお役立ち情報」と「とらぶる解決ナビ」で詳しく紹介しています。

「PCお役立ち情報」から見る

バックアップ方法や復元方法は、次をご覧ください。

「インフォメーションメニュー」－「PCお役立ち情報」－「安全に安心して使おう！」項目の「バックアップ」



見たい情報を
クリック

＜画面の内容は予告なく変更される場合があります＞

「とらぶる解決ナビ」から見る

バックアップ方法や復元方法は、次をご覧ください。

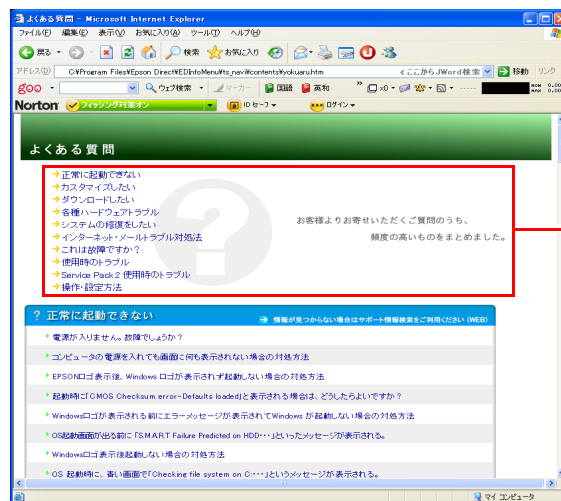
- 1 「インフォメーションメニュー」－「とらぶる解決ナビ」－「よくある質問」項目の「こちら」をクリックします。



「こちら」をクリックします。

＜画面の内容は予告なく変更される場合があります＞

- 2 「よくある質問」が表示されます。



見たい情報をクリック

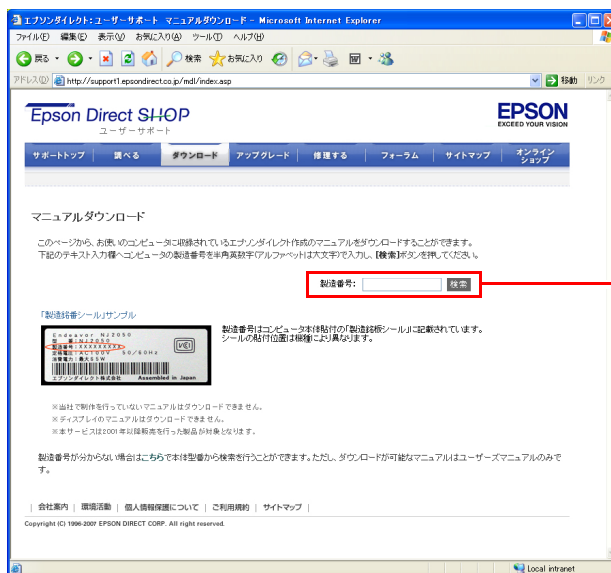
＜画面の内容は予告なく変更される場合があります＞

電子マニュアルのダウンロード

当社のユーザーサポートページからは、お使いのコンピューターや周辺機器の電子マニュアル（PDF）をダウンロードすることができます。

電子マニュアルのダウンロードは、次の場所から行います。

「インフォメーションメニュー」－「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロード」－「マニュアル」



製造番号を入力して検索

<画面の内容は予告なく変更する場合があります>

▶ダウンロードできるそのほかのデータ

「ユーザーサポートページ（web）」－「ダウンロード」からは、次のデータもダウンロードすることができます。必要に応じてご利用ください。ダウンロードできるデータはお使いの機種により異なります。

- 最新のBIOS
- ドライバー
- ユーティリティ
- お問い合わせ情報
- 壁紙

HDD領域（ドライブ）の分割・変更・作成

ここでは、HDD領域（ドライブ）を分割・変更して使用方法について説明します。

▶HDD領域を分割して使用する（概要）

HDD領域（ドライブ）の分割

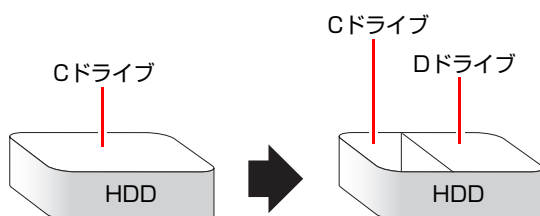
HDD領域は、いくつかに分けて、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。

HDDを分割したひとつひとつを「HDD領域」または「パーティション」とも言います。

また、Windowsで使えるHDD領域が、「ドライブ」になります。

<1台のHDDを分割する>

例：1つのHDD領域（Cドライブ）を、2つのHDD領域（CドライブとDドライブ）に分割します。

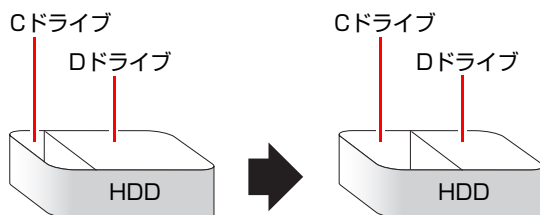


HDD領域（ドライブ）のサイズの変更

すでに分割されているHDD領域のサイズ（容量）を変更することもできます。

<ドライブのサイズを変更する>

例：Cドライブのサイズを大きくします。



この場合は、CドライブとDドライブを削除して、分割しなおす必要があります。

▶Cドライブを分割・変更する

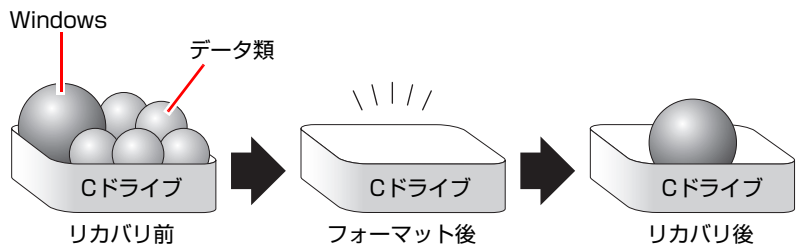
Cドライブ分割のメリットとデメリット

Cドライブを分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
Cドライブを分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

●メリット

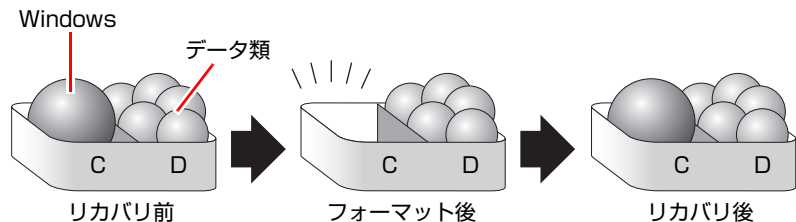
HDD領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、リカバリ時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

<HDD領域が1つの場合>



リカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、Cドライブのデータはすべて消去されます。

<HDD領域を分割した場合>



たとえば、WindowsやソフトウェアはCドライブに、作成したデータなどはDドライブに保存しておきます。

この状態でリカバリ（Windowsの再インストール）を行うと、消去されるのはCドライブのみとなるため、Dドライブのデータは、リカバリ後、すぐにそのまま使用することができます。



制限


HDDが分割されている状態でリカバリを行うときは、万一に備えてCドライブ以外のドライブの重要なデータをバックアップしてください。

● デメリット

- Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割を行うには、リカバリ（Windowsの再インストール）が必要です。
- HDD 領域を変更すると、変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。


Cドライブの分割・変更の流れ

Cドライブの分割・変更は、リカバリ（Windowsの再インストール）中に行います。サイズ（容量）を変更するには、まず変更するドライブを削除してからサイズを指定して再作成します。


Cドライブ以外のドライブの変更方法は、 p.126 「Cドライブ以外のドライブを作成・変更する」をご覧ください。

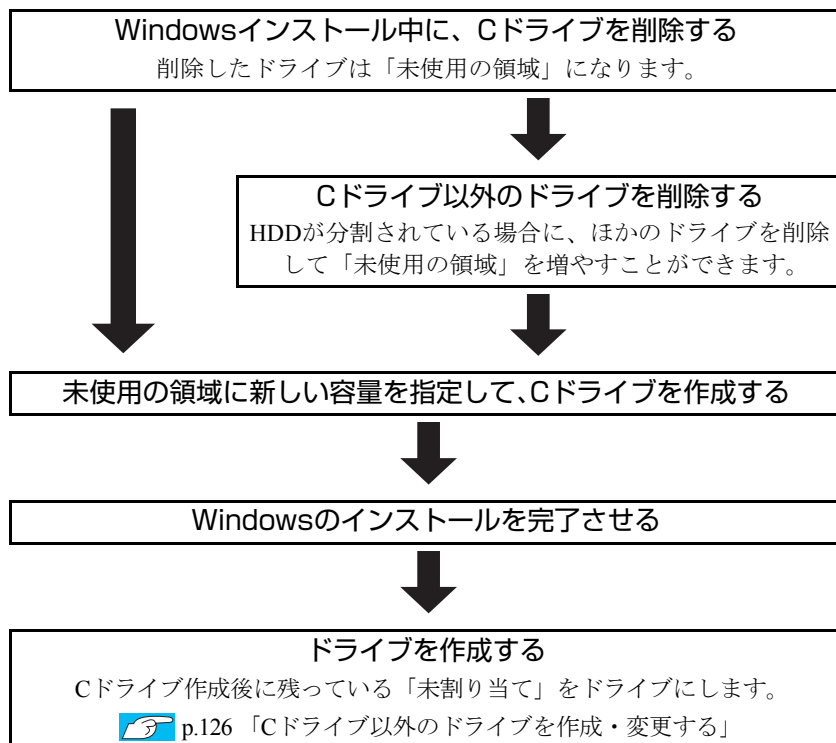


ドライブを分割・変更すると、分割・変更したドライブ内のデータはすべて消去されます。必要に応じてバックアップを取っておいてください。

 p.119 「データのバックアップ」


Cドライブの分割・変更の流れは次のとおりです。

作業は  p.125 「Cドライブを分割・変更する」に従ってください。



Cドライブを分割・変更する

Cドライブの分割・変更をする場合は、Windowsのインストールが必要です。

 p.83 「Windows XPのインストール」の手順4～6を、次の手順に読み替えてWindowsのインストールを行ってください。

<p.83 「Windows XPのインストール」の手順4～6の読み替え>

- 1 「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、Cドライブを選択し、 (削除) を押します。
- 2 「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、 を押します。
- 3 「○○MBディスク××から次のパーティションを削除します。…」と表示されたら、 を押します。
ドライブが未使用の領域になります。

- 4 「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、次のとおり作業を続けます。

<Cドライブを分割する場合>

- (1) 「未使用の領域」を選択して、 を押します。

手順5に進みます。

<Cドライブの容量を増やす場合>

すでにHDDが分割されている場合は、Cドライブ以外のドライブを削除して未使用の領域を増やします。ただし、削除したドライブのデータは消えてしまいます。

- (1) Cドライブ以外のパーティション (ドライブ) を選択して、 (削除) を押します。

- (2) 手順2、3を実行します。

選択したパーティションが「未使用の領域」になります。

- (3) 「未使用の領域」を選択して、 を押します。


手順5に進みます。


- 5 Cドライブの容量を決めます。「○○MBディスク××に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ (MB)」に表示されている数字を で削除し、任意の数値を入力して を押します。

Cドライブには、20GB (20000MB) 程度を割り当てることをおすすめします。

- 6 「次の一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、「C: パーティション1 (未フォーマット)」を選択して、 を押します。

未使用の領域はここではフォーマットできません。インストール後、「ディスクの管理」で行います。


- 7 「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して、を押します。

 p.83 「Windows XPのインストール」の手順7に進みます。

▶Cドライブ以外のドライブを作成・変更する


ここでは、Cドライブ以外のドライブを作成・変更する方法について説明します。次のような場合にご覧ください。

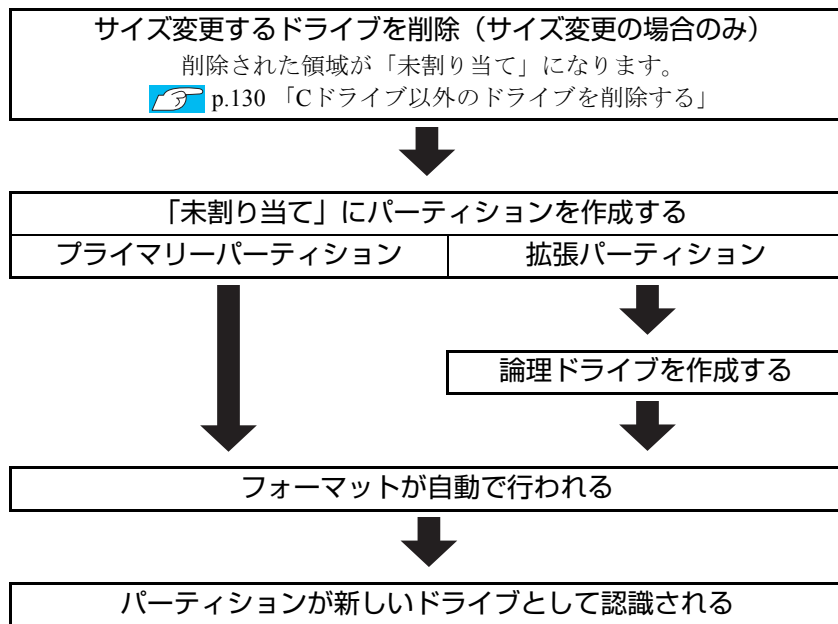
- Cドライブ以外のドライブのサイズを変更する場合
- Windowsの再インストール中にCドライブを分割して作成・変更された「未割り当て」をドライブにして使用する場合

Cドライブ（Windowsの入っているドライブ）の分割・変更を行う場合は、 p.123 「Cドライブを分割・変更する」をご覧ください。

ドライブ作成・変更の流れ

ドライブの作成の流れは次のとおりです。

作業は  p.128 「HDD領域（パーティション）の作成手順」に従ってください。



※HDD内の「未割り当て」にパーティションを作成すると、パーティションは、Windows上でドライブ（DやEなど）として利用できるようになります。

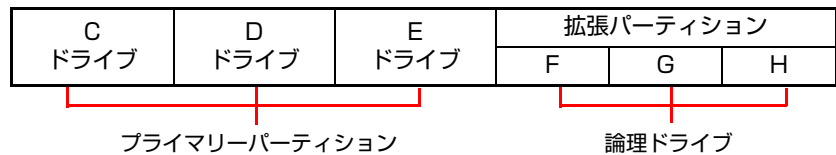
参考

パーティションとは

- ドライブの作成・変更を行う画面（ディスクの管理）では、HDD領域のことを「パーティション」と言います。パーティションには、「プライマリーパーティション」と「拡張パーティション」があります。
- 1つのHDDに作成できるパーティションは最大で4つです。
そのうち拡張パーティションは、最大で1つです。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

プライマリーパーティション、拡張パーティションを組み合わせると、1つのHDDに新しいドライブを5つ以上作成することもできます。

<パーティションの組み合わせの例>

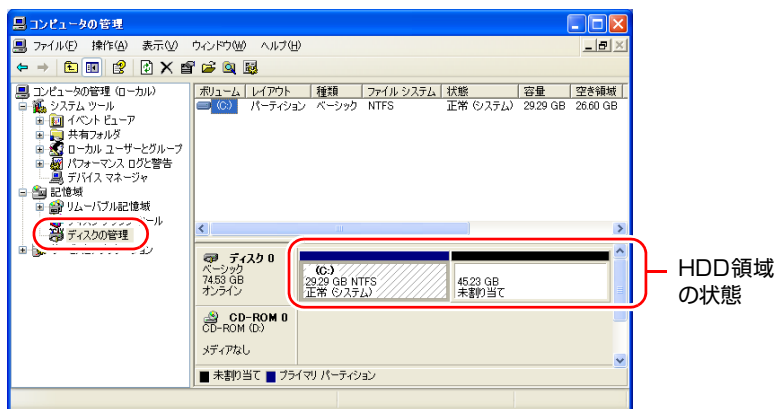


HDD領域（パーティション）の作成手順

HDD領域を作成する手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理」をダブルクリックします。
- 2 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。

画面右下のウィンドウにHDD領域の状態が表示されます。



<イメージ>

- 3 パーティションを設定したい「未割り当て」を右クリックして、表示されたメニューから「新しいパーティション」をクリックします。
- 4 「新しいパーティションウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 5 「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「プライマリパーティション」または「拡張パーティション」を選択して [次へ] をクリックします。通常はプライマリパーティションを選択します。
- 6 「パーティションサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して [次へ] をクリックします。
手順5でプライマリパーティションを選択した場合は、手順12へ進みます。
- 7 「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されます。[完了] をクリックします。
拡張パーティションを作成した領域は、「空き領域」として表示されます。続いて「空き領域」に論理ドライブを作成します。
- 8 「空き領域」を右クリックして、表示されたメニューから「新しい論理ドライブ」をクリックします。

- 9** 「新しいパーティションウィザード」画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 10** 「パーティションの種類を選択」と表示されたら、「論理ドライブ」が選択された状態で、[次へ] をクリックします。
- 11** 「パーティションサイズの指定」と表示されたら、「パーティションサイズ」に任意の値を入力して [次へ] をクリックします。
複数の論理ドライブを作成する場合は、画面に表示されている「最大ディスク領域」以下の値を入力します。
- 12** 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、「次のドライブ文字を割り当てる」で任意のドライブレターを選択して、[次へ] をクリックします。
「ドライブレター」は、ドライブの識別記号になります。
- 13** 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、「このパーティションを以下の設定でフォーマットする」が選択された状態で [次へ] をクリックします。
表示されている設定値を変更する必要はありません。
- 14** 「新しいパーティションウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
自動的にフォーマットが行われます。
フォーマットが終了したら、HDD領域の作成は完了です。
複数の論理ドライブを作成する場合は、手順8～14の作業を繰り返します。

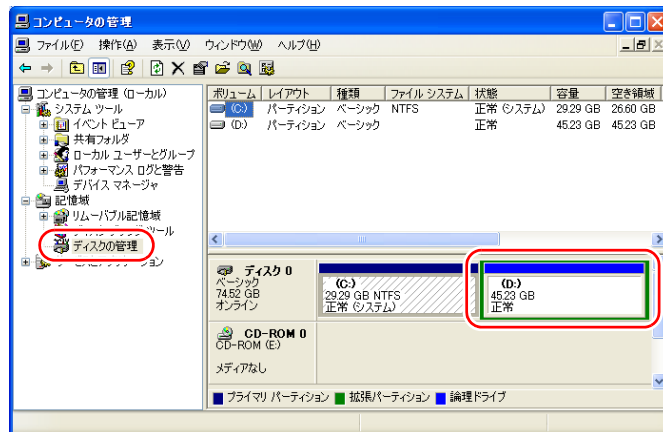
▶Cドライブ以外のドライブを削除する

Cドライブ以外のドライブ（Dドライブなど）のサイズを変更するには、変更するドライブを削除して、新しいサイズでドライブを作成しなおします。

ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。ドライブ内の重要なデータは、CドライブやCD-Rメディアなどにあらかじめバックアップを行ってください。

ドライブを削除する手順は、次のとおりです。


- 1 [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「パフォーマンスとメンテナンス」 - 「管理ツール」 - 「コンピュータの管理」をダブルクリックします。
- 2 「コンピュータの管理」画面が表示されたら、画面左下の「ディスクの管理」をクリックします。



<イメージ>

- 3 削除したいドライブ（パーティション）を右クリックして、表示されたメニューから「論理ドライブの削除」または「パーティションの削除」をクリックします。
- 4 「・・・続行しますか？」と表示されたら【はい】をクリックします。

プライマリパーティションを削除すると、「未割り当て」、論理ドライブを削除すると、「空き領域」になります。「未割り当て」や「空き領域」をパーティションとして使用したい場合は、パーティションの作成を行います。

 p.128 「HDD領域（パーティション）の作成手順」

リチウム電池の交換

BIOS Setupユーティリティーで設定した情報は、本機内部のリチウム電池によって保持されています。

リチウム電池は消耗品です。コンピューターの使用状況によって異なりますが、ACアダプターからの電源供給がまったくない場合、本機のリチウム電池の寿命は約5年です。

日付や時間が異常になったり設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。『サポート・サービスのご案内』(別冊)をご覧ください、カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

コンピューターを廃棄するときは

本機を廃棄するときには『サポート・サービスのご案内』（別冊）の「コンピューターの廃棄・譲渡について」をご覧ください。

▶HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前にHDDのデータを消去してください。

「ドライバー CD」から起動するシステム診断ツールには、HDD内のデータをすべて消去する機能が備わっています。










消去を開始すると、HDDのデータは元には戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。



データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。HDD のデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

データの消去

HDD内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、ドライバー CD を外付け光ディスクドライブにセットします。
「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、 をクリックして画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [終了オプション] - [再起動] をクリックして、本機を再起動します。
- 3** 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えたあと、「Kernel Loading..... Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 4**  +  を押して診断を中止したあと、どれかキーを押します。
- 5** 選択項目画面が表示されたら、 で「HD Erase」を選択して  を押します。
- 6** 選択項目画面が表示されたら、 で「Full Erase」を選択して  を押します。
- 7** 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して  を押します。「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。
消去を中止する場合は、 を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。

- 8** キーボードで「Yes」と入力します。
消去が始まります。
消去には、約60分かかります。
- 9** 「Erase of HD0 :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、ドライバー CDを外付け光ディスクドライブから取り出して、本機の電源を切ります。
これで、データの消去は完了です。

機能仕様一覧

型番	NP11	
CPU	プロセッサ	インテル ATOMプロセッサ
チップセット	SiS672 + SiS968	
BIOS	AMI BIOS	
メインメモリー	メモリー	容量：1GB PC2-5300 (DDR2-533 SDRAM)
	スロット	SODIMMスロット (200ピン) ×1
ビデオ機能	コントローラー	チップセット内蔵SiS Mirage™3 + グラフィックス
	メモリー (メインメモリーと共用)	メインメモリーより128MB使用
	表示解像度 (最大) *1	1600×1200 1920×1200 (ワイドディスプレイ接続時のみ) True Color 32ビット (約1,677万色)
HDD	容量：160GB シリアルATA対応 2.5型HDD	
サウンド機能	インテル ハイ・デフィニション・オーディオ対応 Realtek製ALC662コントローラー	
ネットワーク機能	1000Base-T/100Base-TX/10Base-T対応 Realtek製RTL8111DLコントローラー	
キーボード (オプション)	購入時の選択による	
マウス (オプション)	購入時の選択による	
インターフェース	USB	6 (前面×2、背面×4) : USB2.0
	LAN	1 : RJ-45
	サウンド	前面：ヘッドフォン出力×1、マイク入力×1 背面：ライン出力×1
	ディスプレイ	1 : VGA ミニD-SUB 15ピン
外形寸法 (幅×奥行×高さ)	20×153.5×172.5mm (本体のみ) 74.5×153.5×198.5mm (スタンド含む)	
質量	約790g (スタンド含む)	
電源	ACアダプター *2 (ADP-40MH)	入力：AC100～240V±10% (50/60Hz)、1.5A 出力：DC 19V、2.1A、40W 質量：約266g (電源コード含む)
消費電力	47.6W (最大) /1.3W (スリープ時) /1.1W (電源OFF時)	
動作環境	動作温度：10～35℃、動作湿度：20～80% (ただし、結露しないこと)	

*1 本機に搭載されたビデオコントローラーの出力解像度であり、接続するディスプレイの仕様によっては表示できない場合があります。

*2 本機に搭載されている電源コードはAC100V用 (日本仕様) です。本製品は国内専用ですので海外でお使いの場合は保証対象外となります。

索引

数字

109USBキーボード.....24

A

ACアダプターコネクタ.....13

Adobe Reader.....14

 インストール.....86

 セットアップ.....86

ADSL.....43

Advancedメニュー画面.....71

B

BIOS.....60

BIOS Setupユーティリティー.....61

 HDDアクセス制限.....69

 起動.....61

 終了.....65

 設定項目.....70

 設定値.....75

 設定値を元に戻す.....65

 操作.....62

 パスワードの設定.....67

Bootメニュー画面.....73

C

Caps Lock.....26

CATV.....43

Cドライブ

 分割・変更する.....123

Cドライブ以外のドライブ

 削除する.....130

 作成・変更する.....126

D

Discard Changes.....66

Discard Changes and Exit.....65

E

Exitメニュー画面.....75

F

FTTH.....43

G

gooステイック.....15, 46

 インストール.....89

H

HDDアクセス制限.....69

HDDアクセスランプ.....12

HDDのデータ消去.....132

HDD(ハードディスクドライブ).....28

 不具合.....105

 領域の分割・変更・作成.....122

I

Internet Explorer.....44

 情報バー.....46

 追加機能.....46

ISDN回線.....43

i-フィルター 30日版.....15, 51

 インストール.....87

 管理パスワード.....52

 ユーザー登録.....88

J

Java2 Runtime Environment.....14

JWord Plugin.....15, 46

 インストール.....89

L

LAN機能.....38

LANケーブル.....38

LANコネクタ	38	V	
Load Setup Defaults	65	VGAケーブル	13
M		VGAコネクタ	13
Mainメニュー画面	70	W	
Microsoft .NET Framework	14	Wakeup On LAN	39
MS-IME	25	Webフィルタリング	51
N		Webフィルタリングソフトウェア	51
Norton Internet Security 90日版	15	インストール	87
インストール	87	Windows Media Player	35
ファイアウォール機能	50	Windows Update	47
NTFSファイルシステム	80	Windows XP	
Num Lock	26	インストール	83
O		再起動	19
OS	10	ハングアップしたときは	19
Outlook Express	44	Windows XPリカバリCD	14, 79
初期設定	45	あ	
P		アイコン	11
PCお役立ち情報	22	アップデート	
Powerメニュー画面	72	BIOS	60
S		Windows	47
Save Changes and Exit	65	アナログ電話回線	43
Scroll Lock	26	い	
Securityメニュー画面	74	色の設定	31
Supervisor Password (管理者パスワード)	67	インストール	
U		Adobe Reader	86
USB機器	29	gooスティック	89
接続と取り外し	29	i-フィルター 30日版	87
使う	29	JWord Plugin	89
USBコネクタ	12, 13	Norton Internet Security 90日版	87
User Password (ユーザーパスワード)	67	Webフィルタリングソフトウェア	87
		Windows XP	83
		セキュリティソフトウェア	87
		本体ドライバー	85

マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版	90
インストール時の不具合	111
インターネット	42
不具合	111
インターネットエクスプローラー	44
インフォメーションメニュー	14, 21

お

オーディオ機器の接続	34
お手入れ	118
オペレーティングシステム	10
音量の調節	35
音量の調節(マイク)	37

か

解像度の設定	31
拡張パーティション	127
各部の名称と働き	12
カテゴリの表示	23
かなキーロック	25
かな入力	25
管理者パスワード(BIOS)	67
管理者(Administrator)	80
管理パスワード	
i-フィルター 30日版	52

き

キーボード	24
不具合	105
キーロック表示ランプ	24
記憶装置の不具合	105
起動時の不具合	96
起動順位の変更	73
機能キー	24
機能仕様一覧	134
休止状態	55, 58

有効にする	56
強制終了	19

く

クラシック表示	23
クリック	27

け

警告メッセージ	116
ケーブルテレビ	43

こ

困ったときに	95
コントロールパネルの表示	23
コンピューターウイルス	44, 49
コンピューターの管理者	80
コンピューターの廃棄	132
コンピューター本体の不具合	103
起動時	96
コンピューターを購入時の状態にする	82

さ

再インストール	78
必要なメディア	79
再起動	19
再生	
音声	35
サウンド機能	34
サウンドコネクタ	34
ヘッドフォン出力コネクタ	12
ライン出力コネクタ	35
サウンドドライバー	14
サウンドユーティリティ	36
サウンドレコーダー	36
サポート情報検索	22
サポート・サービスのご案内	94

し

システム診断ツール	14, 15, 112, 132
システム診断の実行	112
システムの復元	114
自動更新	47
終了	18
使用できるマイク	34
省電力機能	23, 54
移行方法	57
時間経過で移行させない	57
種類	55
制限	54
不具合	103
復帰方法	58
情報バー	46
使用・保管時の注意	6
初期設定ツール	81
初期値に戻す(BIOS)	65

す

数値キー	24
スクロール	27
スタートボタン	11
スタンバイ	55
スピーカー	34
不具合	108

せ

制御キー	24
製品保護上の注意	6
セーフモード	114
セキュリティーソフトウェア	49
インストール	87
セキュリティー対策	47
接続と取り外し	
USB機器	29

設定値を元に戻す(BIOS)	65
セットアップ	
Adobe Reader	86
前面	12

そ

ソフトウェア	
不具合	109
強制終了	19

た

ダウンロード	121
タスクバー	11
タブ	11
ダブルクリック	27

ち

直接入力モード	25
---------------	----

つ

通知領域	11
通風孔	12

て

ディスクの管理	128
ディスプレイ	
設定	33
不具合	107
デスクトップ画面	11
電源スイッチ	12
電源の入れ方	17
電源の切り方	18
電源ランプ	56
電子マニュアルのダウンロード	121
添付されているソフトウェア	14

と

ドラッグアンドドロップ	27
とらぶる解決ナビ	22
トラブルが解決しなかったら	22
トラブルが発生したら	94
取り外しアイコン	30

な

ナローバンド	42, 43
--------------	--------

に

日本語入力モード	25
日本語を入力する	25
入力装置の不具合	105
入力モードの切り替え	25

ね

ネットワーク	38
不具合	111
ネットワークドライバー	14

は

パーティション	127
廃棄(コンピューター)	132
背面	13
パスワードの設定(BIOS)	67
バックアップ	28, 82, 119
ハングアップ	19

ひ

光ファイバー	43
ビデオドライバー	14
ビデオメモリー	104
表示装置	
設定	33
不具合	107

ふ

ファイアウォール	50
フィッシング詐欺検出機能	49
不具合	
HDD	105
インストール	111
キーボード	105
起動	96
コンピューター本体	96, 103
省電力機能	103
スピーカー	108
ソフトウェア	109
ディスプレイ	107
ネットワーク、インターネット	111
マウス	106
メモリー	104
復元ポイントを手動で作成する	115
プライマリーパーティション	127
ブロードバンド	42
プロバイダー	42

へ

ヘッドフォン出力コネクタ	12, 34
--------------------	--------

ほ

ボタン	11
ボリューム	35, 37
本体ドライバーのインストール	85

ま

マイク入力コネクタ	12, 34
マウス	27
製品保護上の注意	8
操作	27
不具合	106
マカフィー SiteAdvisor Plus 30日版	15

マニュアルダウンロード 121

み

右クリック 27

め

メモリー

不具合 104

も

文字キー 24

文字を入力するには 25

ゆ

ユーザーサポート 22

ユーザー登録 90

i-フィルター 30日版 88

ユーザーパスワード (BIOS) 67

ら

ライン出力コネクタ 13, 35

り

リカバリ 78

リチウム電池の交換 131

リフレッシュレートの設定 33

リモートブート 41

ろ

ローマ字入力 25

録音

音声 36

音量調節 37

論理ドライブ 127

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮いただいた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼働システムなど極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用は意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でのご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります。当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本製品は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合を生じることがあります。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。（社団法人 電子情報技術産業協会のパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策規格に基づく表示）

有寿命部品について

当社のコンピューターには、有寿命部品（液晶ディスプレイ、ハードディスク、冷却用ファンなど）が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1日約8時間、1ヶ月で25日間のご使用で約5年です。

上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。

なお、長時間連続使用など、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内であっても、部品交換（有料）が必要となります。

JIS C 61000-3-2適合品

本製品は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

パソコン回収について



当社では、不要となったパソコンの回収・再資源化を行っています。

PCリサイクルマーク付きの当社製パソコンおよびディスプレイは、ご家庭から廃棄する場合、無償で回収・再資源化いたします。

パソコン回収の詳細は下記ホームページをご覧ください。

<http://shop.epson.jp/pcrecycle/>

Macrovision著作権保護技術について

本製品が採用しているMacrovision著作権保護技術は、米国特許 (Nos. 5,315,448 and 6,836,549) および知的財産権により保護されています。Macrovision Corporationの認可なしに、この技術を使用することはできません。リバースエンジニアリングや分解は禁止されています。

* Macrovision著作権保護技術とは、DVDなどの映像コピー防止に関する技術です。

著作権保護法について

あなたがビデオなどで録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

テレビ・ラジオ・インターネット放送や市販のCD・DVD・ビデオなどで取得できる映像や音声は、著作物として著作権法により保護されています。個人で楽しむ場合に限り、これらに含まれる映像や音声を録画または録音することができますが、他人の著作物を収録した複製物を譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載 (改編して掲載する場合も含む) するなど、私的範囲を超えて配布・配信する場合は、事前に著作権者 (放送事業者や実演家などの隣接権者を含む) の許諾を得る必要があります。著作権者に無断でこれらの行為を行うと著作権法に違反します。

また、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

ご注意

1. 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
2. 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容は万全を期して作成いたしました。万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
4. 運用した結果の影響につきましては、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

- Microsoft、Windows、Windows Media、ActiveX、Internet Explorerは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Intel、インテル、Intelロゴ、インテルAtomは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
- Symantec、Symantecロゴ、Norton Internet SecurityおよびLiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。
- McAfeeおよびマカフィーは、米国法人McAfee, Inc. またはその関連会社の米国またはその他の国における商標または登録商標です。
- Adobe、Adobeロゴ、Readerは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

The logo graphic consists of a blue horizontal bar with three white diagonal stripes on the right side, positioned above the text.

shop.epson.jp